

東日本大震災

踏み出そう!

子どもたちの笑顔のために

# あすへ向けての軌跡

～震災から1年を経て～



国立大学法人  
宮城教育大学

教育復興支援センター

東日本大震災

踏み出そう！  
子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡

～震災から1年を経て～

## 復興教育の研究とその創造的発展



宮城教育大学長  
高橋孝助


あの3・11から1年が過ぎました。私たちは、改めて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、いまだ行方知れない方の一日も早いご帰還を願い、被災された方々の生活、そして地域の一日も早い復興を心から願うものです。

併せて、国の内外から本学に寄せられた数々のご好意、ご支援にたいし、すべての教員・職員、学生、児童・生徒にかわり、心から感謝申し上げます。

本学の教員・職員、学生、児童・生徒の皆さんには、この1年間、さまざまご苦勞をかけました。この間、復旧作業に寝食を忘れて奔走された教職員。ボランティア活動に汗をかかれた学生・院生。卒業式も入学式もできず、卒業・修了を祝福することもできなかった平成22年度。入学の歓迎をすることもできなかった平成23年度の学生・院生の皆さん。一方、混乱のなかでも、元気に次のステージへと進み、また笑顔で入学してくれた附属4校園の児童・生徒。みんなそれぞれが直面した厳しい状況に耐えてくれました。学長として、皆さんを誇りに思い、宮城教育大学で学ぶ時間、仕事をする時間を共有できたことを大変に嬉しく思います。







言うまでもなく、3・11は、教育大学に所属する私たちにとっては自らの存在を証明し、その意義を示すことを求められるものでした。幸い本学の直接的な被害が少なかったこともあり、発生直後の活動の後、復旧作業におおむね見通しがついた6月末には、災害対策本部を教育復興対策本部に改組しました。発生以来、被災各地で、学生のボランティア活動、特に学校、避難所などで子どもたちの学習、遊び、話し相手になる、教員を補助するなどの活動は、多くのところで子どもたちに喜ばれ、保護者に歓迎され、その継続を望まれていました。これらは、「何かの役に立ちたい」という学生たちの自主的・自発的な活動でした。大学は、彼らの意志を尊重し、その活動の安全を保障し、経済的に少しだけ支援しつつ、彼らの活動の場である教育の現場・学校、県教育委員会・市教育委員会、各市町村教育委員会のニーズは何かをよく聴き、これに応える大学側の支援体制・ボランティアの受け入れ体制を整えました。こうして大学が運営にあたる宮城教育大学教育復興センターを立ち上げたのです。本学のこうした活動は、全国の教育大学長、いくつかの教員養成学部長

の賛同を得て、北は北海道、関東、中部、関西、南は福岡など多くの大学から学生たちが本学にやって来て、本学が指定する県内各地の学校現場に出かけ、子どもたちに寄り添う活動をしています。彼らの活動が、大学にとっては今後の教員養成を元気づける内容とパワーとなることは間違いのないと思われます。

これからは、復興教育の研究とその創造的発展もこの教育復興支援センターのテーマになります。これまで頑張ってくれた学生、協力してくださっている県・市教育委員会をはじめとする教育委員会関係者、学生を派遣してくれている各大学の先生方、本学の教職員に感謝するとともに、今後もより一層ご協力をお願いし、ともに復興教育の創造に取り組みたいと思います。

以上のように、本学はこの1年間、教育大学の機能を具体的に示す被災地における活動に取り組み、趣旨に賛同される教育大学・教員養成学部・課程の連携の元に、復興教育の拠点としての位置を占めつつあります。

3・11は、本学に多くの教訓をもたらしました。本報告は、その一端を記録したものです。

平成24年3月23日

# 目次

踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から1年を経て～

東日本大震災

復興教育の研究とその創造的発展 宮城教育大学長 高橋 孝助

I 震災被害	01
1 M9の巨大地震と津波	01
2 宮城県の被災状況	02
3 大学の被災状況	02
II 大学の当初対応	03
1 安否確認	03
2 学生の被害状況調査	04
3 学事日程等の措置	05
4 宮城教育大学生への支援	05
III 学生の自発的ボランティア活動	08
IV みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト	09
1 緊急的なボランティア派遣	10
2 物資等の支援	14
3 セミナーの開催	15
V 教育復興支援センター	18
1 研究部門と支援実践部門	19
2 実施体制・人員配置	19
3 拠点（ブランチ）の設置とテレビ会議システム・教材ソフト	20
4 センター棟の新設	22
5 ホームページの整備	24
6 6つの支援プログラム	25
VI 学生ボランティア派遣事業	26
1 夏休みの取組	26
2 ボランティア報告会	31
3 ボランティア総会	33




## 目 次

---

4 現職教員のボランティア休暇を利用した支援	34
5 9月以降の取り組み	35
6 3月（春休み）の取り組み（予定を含む。）	36
7 学生教育への効果	38
8 参加大学や支援学校からのおたより等	39
<b>VII その他の事業</b>	<b>50</b>
1 子供対象・参加イベント事業	50
2 心のケア支援事業	52
3 こころざし・キャリア教育事業	54
4 特別支援教育等関係事業	55
<b>VIII 今後の課題</b>	<b>57</b>
<b>IX 南東北3大学の連携</b>	<b>58</b>
<b>X 創造的復興教育協会との連携</b>	<b>59</b>
<b>XI 外部資金等の獲得</b>	<b>60</b>
1 大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業	60
2 震災復興・日本再生に関する支援対象事業	61
<b>XII 地域学校等との連携・研究</b>	<b>62</b>
<b>資 料</b>	<b>63</b>
1 平成23年度実施（予定）事業一覧（緊急的なボランティア派遣を除く）	63
2 ボランティア実施風景（春から夏）	66
3 新聞記事	74

あとがき





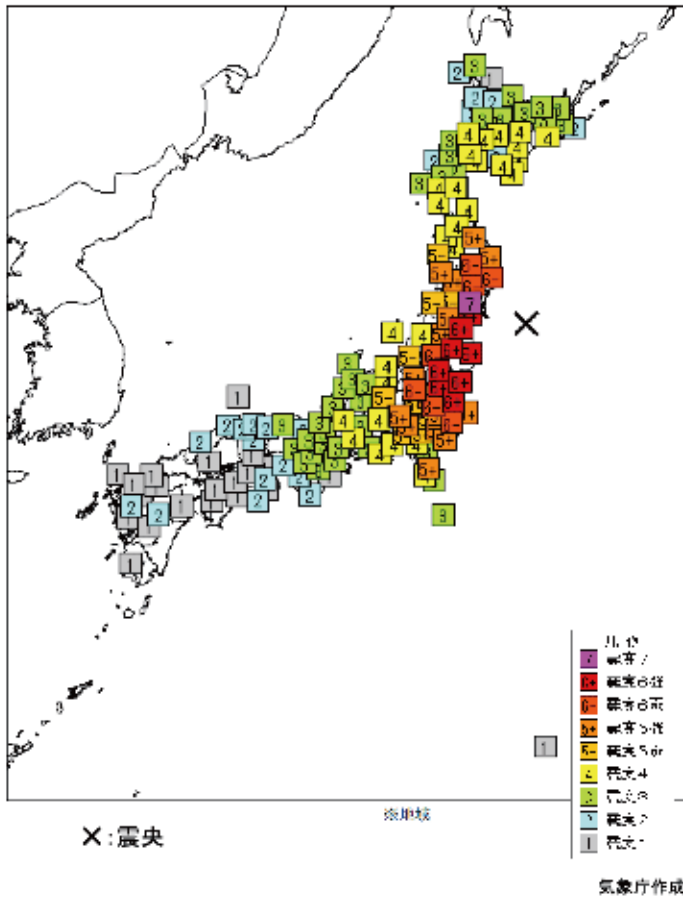
# I

# 震災被害

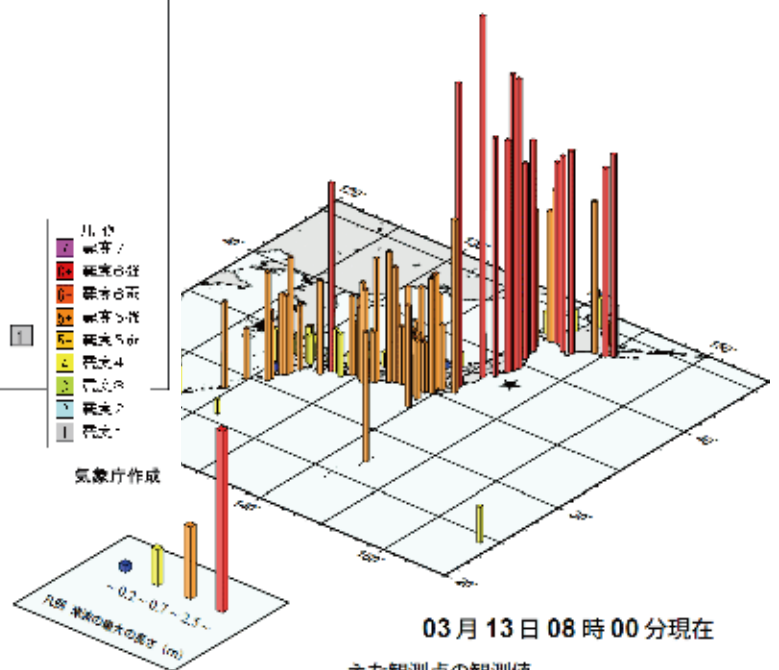
## 1 M9の巨大地震と津波

平成23年3月11日14時46分頃の三陸沖の地震  
震度分布図

2011年3月11日 午後2時46分  
東日本大震災発生



津波観測状況



主な観測点の観測値

観測点	第一波		最大波	
	時刻	向き	高さ	高さ
相馬	11日 14時 55分	押し	0.3m	11日 15時 50分 7.3m以上
大洗	11日 15時 15分	押し	1.8m	11日 16時 52分 4.2m
釜石	11日 14時 45分	引き	0.1m	11日 15時 21分 4.1m以上
宮古	11日 14時 48分	押し	0.2m	11日 15時 21分 4.0m以上
石巻市鮎川	11日 14時 46分	押し	0.1m	11日 15時 20分 3.3m以上
大船渡	11日 14時 48分	引き	0.2m	11日 15時 15分 3.2m以上
むつ市関根浜	11日 15時 20分	引き	0.1m	11日 18時 16分 2.9m
根室市花咲	11日 15時 34分	引き	微弱	11日 15時 57分 2.8m
十勝港	11日 15時 26分	引き	0.2m	11日 15時 57分 2.8m以上
浦河	11日 15時 19分	引き	0.2m	11日 16時 42分 2.7m

出典：気象庁ホームページより



## 2 宮城県の被災状況

広域にわたり多くの被害を与えた今回の東日本大震災は、宮城県において、亡くなられた方、行方がいまだ分からない方を合わせて11,332名（12月28日現在）に上るとともに、永々と続いてきた生活の拠点が沿岸部を中心に破壊された。

### 宮城県の東日本大震災における被害等状況（抜粋）

（平成23年12月28日現在）  
宮城県ホームページから

（人）

人的被害			住家被害		
死者	行方不明者	重傷者	全壊	半壊	一部損壊
9,471	1,861	434	82,754	129,212	211,305

また、学校現場に与えた被害も甚大なものとなり、学校の施設被害が882校中762校（2月13日現在：県教委）、当面校舎等が使用できない小・中学校が50校（10月3日現在；県教委）となっている。

こうした中、被災地域の子どもたちは劣悪な教育環境の中、地域差はあったものの約一月遅れで新学期を迎えた。

### 宮城県の公立学校等の被害状況（抜粋）

（平成24年2月13日現在）  
宮城県教育委員会ホームページから

（人）

児童・生徒の人的被害		教職員の人的被害	
死者	行方不明者	死者	行方不明者
320	42	19	0

## 3 大学の被災状況

宮城教育大学の被災状況は、約3,600名の学生・院生・園児・児童及び生徒のうち震災による死亡は無かったものの、家族の死亡や不明、家屋の全壊、半壊等の被害を受けた学生は延べ500名に上る。しかし、2度に渡る震度6強の地震にもかかわらず建物の被害は近隣の大学に比べ軽微なものであった。（幸いにも、主な建物の耐震補強整備がほぼ完了していたことによるものと考えられる。）





## Ⅲ

# 大学の当初対応

## 1 安否確認

3月11日の地震直後から停電、断水等ライフラインが寸断されるなど、これまでの経験則に当てはまらない状況の中で、「災害対策本部」を設置し、学生・教職員の安否確認、被災状況の調査及び学内施設・設備の被災状況等の調査を行うとともに、一般入試後期日程試験の合否判定の変更や入学手続期間の延長、卒業式・入学式の中止や延期などの入試関係や学事日程等の調整を進める一方、本学の被災学生への支援として、入学料及び授業料の免除枠拡大、心のケアのための学生相談窓口の開設、奨学金等を給付することを目的とした募金活動、学生寮への優先入寮、臨時居住場所の提供等を措置するとともに、学生ボランティア活動への経済支援等を行った。

### 電話(事務局及び各専攻等からの確認の併用)とメールによる安否確認

#### ヤフーのフリーメールを利用した学生の安否確認

ヤフーのフリーメールを利用した学生の安否確認については、3月13日(日)理科教育講座 高田教授が災害対策本部 見上理事に提案を行い、了承を受け実施したものです。

インフラ関係は被害をうけているものの、携帯メールは機能していること。また、学生間の連絡方法として携帯メールが一般的なことによるものです。

手順は、インターネット検索会社ヤフーのフリーメールサービスから、安否確認用のメールアドレスを取得し、テレビ、ラジオを通じて学生に該当アドレスに安否確認の連絡を行うよう周知すること、でした。

高田教授が安否確認用メールアドレスを取得し、千葉総務専門職が3月13日(日)午後、在仙の放送局各社へ依頼を行いました。

NHKと仙台放送には、3月13日(日)から当該放送を行っていただきました。

3月15日(火)午後、大学のメールサーバが復旧したため、大学のHPにも学生への安否確認方法を掲載し、3月28日(月)全学生の安否確認が完了しました。

### 4月7日の地震による安否及び被害状況確認について

(ホームページ4月8日更新)

4月7日23時32分に発生した地震による本学の学生のみなさんの安否及び被災情報等について、次の電話番号またはメールアドレスにお寄せください。

(平日8時30分～19時00分) 電話番号 022-214-3595 (学生課学生企画係)  
022-214-3340 (学生課学生支援係)

(夜間、土曜、日曜及び祝日) 電話番号 022-214-3317

メールアドレス miyakyooanpi@yahoo.co.jp



### 大規模地震（震度6弱以上）の際の安否確認について

仙台市で大規模地震（震度6弱以上）が発生した際、本学の学生のみなさんは、安否情報を次のメールアドレス又は電話番号にお寄せください。

#### 【報告先】

##### ● e-mail

[miyakyoanpi@yahoo.co.jp](mailto:miyakyoanpi@yahoo.co.jp)

→ [anpi@miyakyo-u.ac.jp](mailto:anpi@miyakyo-u.ac.jp) (平成24年3月19日 アドレス変更)

##### ● 電話番号

〈平日 8時30分～18時00分〉 022-214-3595 又は 3340 (学生課)

〈夜間、土曜、日曜及び祝日〉 022-214-3317 (守衛室)

#### 【注意事項】

- この情報は、紙ベースで携帯してください。
- 報告先は、携帯に登録しておいてください。

## 2 学生の被害状況調査

### 被害状況調査について（お願い） (3月18日更新)

大学として今回被害に遭われた学生のみなさんへの支援等について検討しております。

については、ご家族を含めた学生のみなさん（入学予定者を含む）の被災状況を調査することといたしました。この状況下であります。本調査にご協力くださるよう、よろしくお願いいたします。

**全学生のみなさん（入学予定者を含む）は、以下の項目をメールで回答してください。**

報告用アドレス [miyakyoanpi@yahoo.co.jp](mailto:miyakyoanpi@yahoo.co.jp)

**（急いでおりますので、早めに送信してください。）**

- ① 学籍番号（入学予定者は受験番号）
- ② 氏 名
- ③ 被災の有無（有・無で回答してください。）  
有→ ④以下に回答してください。  
無→ この段階でメール送信してください。
- ④ 被災状況（以下のうち該当項目を記載してください。）
  - ・ 本 人：ケガ（程度を記載ください。）
  - ・ ご家族：ケガ○名（程度）、安否不明○名
  - ・ 家 屋： 全壊 ・ 半壊 ・ 一部壊
- ⑤ 避難先（現在の避難先名、分れば住所を記載してください。）
- ⑥ その他、ご意見等

## 3 学事日程等の措置

### 1) 入試対応関係

- ①一般入試後期日程試験：大学入試センター試験の成績により合格判定
- ②入学手続期間の延長：（本人連絡先及び出身高校を通じて入学意思及び震災の影響の確認）
  - 一般入試前期日程試験及び私費外国人留学生入試  
3月14日（月）～15日（火）を18日（金）まで延長
  - 一般入試後期日程試験  
3月26日（土）～27日（日）を3月29日（火）～4月4日（月）まで延長
  - 大学院  
3月16日（水）～17日（木）を18日（金）まで延長

### 2) 学事日程関係

#### 【大学】

- ①卒業式（3月25日）を中止
- ②入学式（4月6日）を中止
- ③新入生オリエンテーション（4月6・7日）を5月6日に変更
- ④授業開始（4月11日）を5月9日に変更

#### 【附属学校】

卒業式及び入学式は、延期して実施

## 4 宮城教育大学生への支援

### 1) 入学料及び授業料の免除枠拡大

被災により勉学を断念されることがないように、被災により経済的に困難になられた入学予定者及び在学学生のみなさんに対して、本学の入学料及び授業料免除（全額免除あるいは部分免除）を行います。

①入学料免除及び授業料免除の手続日程は次のとおりです。

- 入学料免除受付期間：4月22日（金）
- 授業料免除受付期間：4月22日（金）

※被災された場合は、4月22日以降も免除申請を受付けます。

→授業料免除、徴収猶予、月割分納及び入学料免除申請の受付期間延長について

②日本学生支援機構奨学金（緊急採用、応急採用）は、随時申請可能です。

→日本学生支援機構奨学生緊急採用・応急採用について

経済支援の問合せ先：学生課学生支援係

電話番号：022-214-3340



### 2) 心のケアのための学生相談窓口、震災学生相談コーナーの設置

#### 学生相談コーナーの設置について (3月29日更新)

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって災害を受けた学生に対し、本学では相談コーナーを設置しました。2号館1階事務室⑤窓口にご相談ください。登校できない方は、下記の電話・メールアドレスまでご連絡ください。

問合せ先：学生企画担当

電話番号：022-214-3595（学生課学生企画係）

022-214-3340（学生課学生支援係）

E-mail：gakusei@adm.miyakyo-u.ac.jp

### 3) 被災学生への募金活動の呼び掛け

#### 趣意書

##### 1 趣旨

平成23年3月11日（金）に発生した東日本大震災により、宮城教育大学では学生・幼児・児童・生徒・教職員、全員の安否を確認しているものの、家屋の倒壊や家族の被災などの被害を受けた学生も少なくありません。

本学といたしましては、教職員、学生及び関係各位の皆様呼びかけて募金を行い、国立大学法人法第22条第2号に規定する国立大学法人の業務に基づき被災学生の修学支援に役立てたいと考えております。

つきましては、この募金の趣旨をご理解いただき、多くの皆様からのご協力を賜りますようお願いいたします。

2 募集期間 平成23年4月6日（水）から平成23年9月30日（金）

##### 3 募金方法

① 銀行振込 七十七銀行 本店営業部 普通預金 口座番号 7923660

口座名義 東日本大震災宮城教育大学被災学生支援募金

② 直接持参 宮城教育大学財務課経理係（事務局管理棟1階）にて受け付けいたします。

#### 【税制上の優遇措置について】

本学所轄の税務署から税制上の優遇措置が受けられる旨の確認が取れましたので、本趣意書と銀行（ATM等）で発行される振込票の控え（直接持参の場合は本学が発行する領収証書）をもって確定申告の際の証明書類として差し支えありません。

平成23年4月6日

宮城教育大学長 高橋孝助

義援金 435件 総額 28,484,810円（平成23年10月11日現在）

義援金の一部は東日本大震災宮城教育大学被災学生支援奨学金として、このたびの大震災の影響により家計が急変し、修学が著しく困難になった附属学校の園児・児童及び生徒並びに学生135名に対して10万円ずつ支給（支給総額1,350万円）。

なお、今後の義援金の活用については同趣旨の事業に活用予定。

## 4) 被災した学生及び新入生への優先入寮、臨時居住場所の提供

### 被害を受けた学生及び新入生の居住場所の確保について (4月7日更新)

- 住居の全壊等により現在居住にお困りになっている学生及び新入生のみなさんについて、学生寮への優先入寮や学内施設（学生会館の集会室等）の臨時宿泊場所としての提供を含め、現在その支援準備を行っています。

相談窓口を設置いたしましたので、お困りになっているみなさんは、次の電話番号又はメールアドレスへご連絡願います。

なお、メールでの相談の場合は、相談内容のほか、学籍番号（又は受験番号）・氏名・連絡先を明記願います。

電話：022-214-3706

メールアドレス：[sa-tuyo@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:sa-tuyo@staff.miyakyo-u.ac.jp)

相談担当者：研究・連携推進課 副課長 佐藤 剛

- 学生寮の入寮手続の書類提出は、平成23年4月4日（月）まで延長します。

※被災された場合は、4月4日以降も入寮を受付けます。

→学生寮への入寮手続書類提出期限の延長について

なお、女子寮については、部屋が満室となりました。

居住場所でお困りの方は、以下の問合せ先にご相談ください。

問合せ先：学生課学生支援係

電話番号：022-214-3340

## 5) 学生ボランティア活動への経済支援

### 災害学生ボランティア活動への支援について

『困難に立ち向かい、かかわり合い、助け合い、学び合う、学生の自主的ボランティア活動』に大学として支援を行います。支援期間は、平成23年3月から当面のところ平成24年3月までを目途とします。対象と手続は次のとおりです。

(対 象)

#### 1. 災害学生ボランティア活動支援

災害学生ボランティア活動支援として、1日当たり1,000円を支援します。

#### 2. ボランティア活動保険料支援

個人で社会福祉協議会のボランティア活動保険に加入し、保険料を支払った場合は、保険料を支援します。

#### 3. ボランティア活動保険加入

ボランティア活動保険未加入の場合は、大学が学生のボランティア保険加入手続を行います。

(手 続)

次の様式をダウンロードし、必要事項を記載の上、学生課学生企画係に提出してください。





# III

## 学生の自発的ボランティア活動

こうした中、本学学生による学校支援は学生の自発的ボランティア活動の形で震災直後から行われており、その数は報告があったものだけでも230件を超えていた。これは、教育委員会との連携による「学校支援サポートスタッフ」事業（例年250人程度の登録、200人程度が活動）や理科支援員事業等において、災害の有無に関わらず日頃から学校支援ボランティアとして活動してきた経験が活かされ、学校現場を身近に感じている学生が多く育成されたものと考えられる。

### 自発的ボランティア（報告のあったもの）

	おもな活動内容	実人数
県内県外 各区市町村 災害ボラン ティアセン ター	●瓦礫撤去、倒れた家具の移動、運びだし、片付け、津波被害に合った家の泥出し、清掃など	70
	●避難所の給水・炊き出し、物資の仕分け、利用者の受入等運營業務	
	●高齢者への支援（自宅清掃、避難所での支援等）	
	●ボランティア募集のチラシ作成・配布、参加者名簿作成作業等	
	●外国人への支援（通訳、電話対応等）	
	●避難所の子どもたちの遊び相手、読み聞かせ活動等	
NPO等 一般団体	●瓦礫撤去、地震で倒れた家具の移動、運びだし、片付け、津波被害に合った家の泥出し、清掃など	37
	●避難所の給水・炊き出し、物資の仕分け、利用者の受入等運營業務	
	●高齢者への支援（自宅清掃、避難所での支援等）	
	●ボランティア募集のチラシ作成・配布、参加者名簿作成作業等	
	●避難所の子どもたちの遊び相手、読み聞かせ活動等	
	●復興支援イベントの運営	
	●学童保育（入学式・始業式が延期になった児童の世話）	
	●発達障害児への学習支援、余暇支援	
	●募金活動	
	●買い物難民である高齢者や身体の不自由な方々の買い物代行	
●避難所の子どもたちへの学習支援		
大学・ 研究室等	●気仙沼市立鹿折小学校における清掃活動、書類整理、支援物資の仕分け作業、児童の下校補助など	94
	●塩竈市浦戸諸島における瓦礫撤去、支援物資運搬、避難所補助等	
	●東松島市立浜市小学校における学校の引っ越し作業	
	●石ノ森漫画館の復興支援イベント運営	
	●大学学生会館における支援物資仕分け作業	
●民家の泥出し作業		
個人単位等	●震災当日活動中だったボランティア先の小学校における物質の積み卸し、食事の炊き出し、水汲み等（そのまま避難所となり泊まり込んで活動した）	29
	●飼い主を失った動物の世話	
	●避難所のマッサージコーナーのサポート	
合 計		230



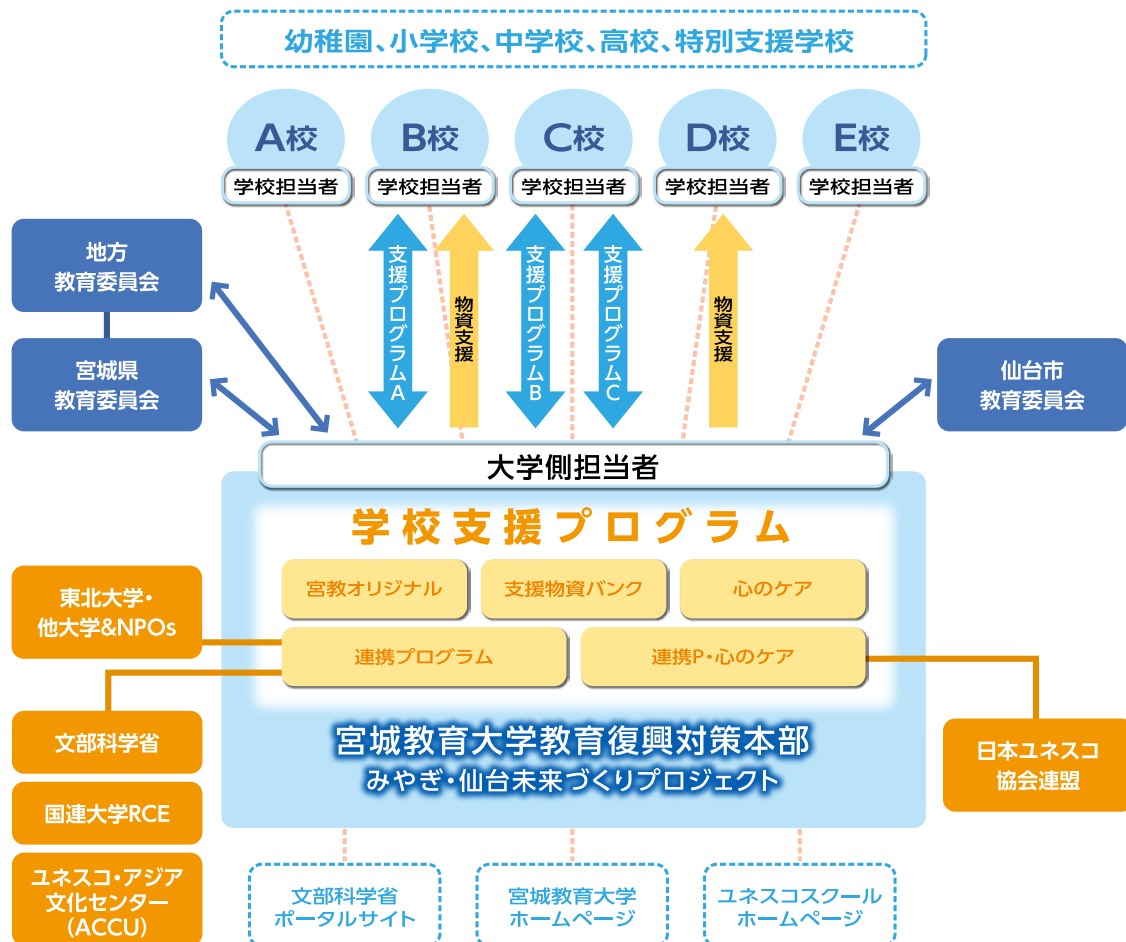
# IV

## みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト

震災当初は、前述の安否確認等に最大勢力を注ぎこむこととなったが、約3週間後には、学内の災害対策について一定の方向性が定まり、4月5日に、学校支援のための「みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト」（別図参照）を設置した。既設の「ESD/RCE 推進会議」がそのプロジェクトの事務局を担当することとし、本学の災害支援窓口を一本化し、宮城県内の地震、津波被害を受けたすべての幼稚園、小中学校及び特別支援学校の被災状況、支援のニーズの調査の他、救援物資・文具の中継、被災地の現状を共有するためのセミナーの開催、支援ボランティアの派遣等、教育の復興を行うこととした。

教育復興は、被災地に対する社会的な注目が集まる期間だけでなく、中長期の取り組みになることを肝に銘じ、県や地域教育委員会の復興の基本方針にしたがって、地道な努力を重ねることがもっとも重要であり、同プロジェクト設置直後に、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会に出向き、本学の学校支援の進め方を説明する一方、気仙沼市教育委員会を訪問し、被災地の現状と要望を聞くとともに、情報交換を行った。

その後、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会の意向を受け、また気仙沼の現状等をもとに、南は山元町、北は気仙沼市まで、津波被害の大きかった沿岸部の11市町すべての教育委員会を訪問してニーズを伺うとともに、支援要請のあった学校に対して支援活動をするということについて了承を得た。



IV みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト

## 1 緊急的なボランティア派遣

この時点で、すでに学校個別への支援も始まっており、例えば、宮城県立石巻支援学校には、4月11日から概ね1ヶ月間、学生ボランティア約30名を派遣し、障害のある児童・生徒への学習支援や避難住民へのサポート（食事、洗濯、清掃）を行っている。この支援は救援物資の支援活動の中でニーズが把握できたことによるものである。

また、仙台市内の沿岸部の被害の大きかった小・中学校等（別記1「仙台市内緊急支援ボランティア一覧」参照）に、仙台市教育委員会との連携・調整により、4月18日から順次、緊急的に学生ボランティアを派遣（東北大学からの支援学生を含む）した。この支援については、大学の授業が開始された以降においても、学生が講義等の空き時間を調整しながら一部を除き現在も継続して実施している。

学生ボランティアの派遣については、学生の授業への出席との兼ね合いのもと実施するため、大学の長期休業期間以外の遠方への派遣については課題が残るものであった。



教育環境整備風景

### 仙台市内学校緊急ボランティア支援一覧(4月18日～7月20日)

学校名	期 間	おもな活動内容	実人数
仙台市立七郷中学校	4月18日～28日	当初：教室環境づくり、給食の補助、部活動補助、生徒の話し相手、安全確保などを中心に活動 4月21日以降：学習支援と授業補助	26
仙台市立高砂中学校	4月26日～5月6日	給食の調理補助と配膳 救援物資（文房具）の仕分け作業	9
仙台市立六郷中学校	6月8日～30日	避難所となった体育館での小中高校生への、学習支援及び話し相手	13
仙台市立中野小学校	5月13日～	移転先小学校における、授業中のサポートや休み時間・放課後の遊び相手、話し相手	29
仙台市立郡山中学校	4月23日 6月4日	避難所への炊き出し支援	7
仙台市立東六郷小学校	6月1日～	移転先中学校における、放課後の避難所へ帰るためのバスが来るまでの間の遊び相手や話し相手	19
東六郷幼児学園	6月1日～	移転先市民センターにおいて、通園退園の補助や遊び相手、学園の活動のサポート	7
仙台市立荒浜小学校	6月1日～	移転先小学校において、業間休みの遊び相手	16
ウェルサンピア仙台	6月1日～7月8日	児童の宿題等学習活動への支援（荒浜地区避難所）	
合 計			146



## 「実施報告」

### 石巻支援学校への支援活動について

菅井 裕行（特別支援教育講座）

4月初頭、被災地の重症児のためにおむつを現地に届ける支援活動をしている最中、たまたま石巻支援学校へ立寄りしました。支援学校は、当時、付近の住民の方々や在籍児童生徒が避難してきていて、元々指定避難所ではなかったのですが、急遽避難所となって、学校の先生方が中心に避難所運営をしていました。このとき、櫻田校長からぜひ宮教大の学生さんの力を貸してほしいと依頼されました。そこで、大学に戻ってメールを使って特別支援教育専攻の学生を中心に呼びかけたところ、またたく間に30名を越える志願の連絡がありました。私はすぐに計画を作成し、講座職員と学生課事務職員と連絡を取り合っ、学生に動いてもらうことになりました。

応募してくれた学生で1チーム2～3名の9チームが編成されました。学生の送迎に関しては同じ講座の先生方にもお手伝いをお願いしました。4月11日（月）に第Iチームの学生3人と一緒に石巻支援学校に入りました。準備期間も何もないので、ほとんどすべては入ってみてから分かり、やっていく中で対応を考えていくという、まさに臨機応変の業でした。学生が担った仕事は大きく分けて3つありました。その第一は食事に関するお手伝いです。私たちが入ったときにはすでに定期的に自衛隊から配給食料が来ていました。毎回、この食料を玄関先で受取り、その多数の段ボール箱を所定の保管場所まで運び、その内容や数量を確認しなければなりません。自衛隊とは別に各種の団体やあるいは地域の方々からも物資が届きますが、これらも管理が必要です。これら食材をもとに、食事の献立を考え、特に夕食には汁物の他に調理したものが提供されていました。食材は何か入ってくるかはわかりませんし、避難者の人数も日々刻々と変化します。朝食は、パンやソーセージなど調理不要のものを中心に配給しますが、それらを朝決まった時間に玄関口に出された長机に並べ、避難者全員に呼びかけて玄関先に取りにきてもらいます。食後は片付けがあって、午後にはすぐに夕食の準備が始まります。学生は学校に到着すると、まず控え室に入り、交替を待っていた学生達と会って、前二日の作業の報告および連絡事項を引き継ぎます。そしてエプロンをつけて家庭科室へ移動し、夕食準備の手伝いに入ります。夕食の片付けまでの流れはほとんどのチームもほぼ同じ展開だったようです。朝食の準備は前日の晩のうちに済ませておき、所定の時間になったら玄関先に準備して放送で呼びかけ、同時に本部（泊まり込みの先生や市からの派遣職員）の朝食を準備し、食後片付けるまでを学生が担うことになりました。



食事の次に大事な仕事は、家庭のこまごまとした家事にあたることです。学校とはいえ、当時は避難者の生活スペースですから、生活ごみも出ます。避難者の方々が排出する大きなゴミ箱のゴミを外の倉庫に運び、玄関・トイレをはじめ生活スペースとなっている場所を清掃すること、学校の物品の洗濯や布団干し、カバー洗い、毛布等の整理なども学生の仕事となりました。玄関清掃も学校ともなれば広いので、それなりに人手が必要です。おまけに震災後は4月に入ってもしばらく寒い日が続き、降雪すら目にしました。複数台のストーブの灯油補給や薬罐のお湯を適宜玄関前に並べ置いたポットに移し入れ、避難者の方々がいつでも熱いお湯を利用できるようにしてもらいました。途中からは、避難者対象に足湯タイムを設定し、特定の教室を足湯会場にして、学生がそのお世話をするようになりました。学校では入浴を提供できなかったため、かなり好評だったようです。また別の学生グループは、教室掲示の手伝いもしていました。開校に向けて廊下や教室の壁面などを動物やキャラクターなどで装飾する仕事です。学生はそれぞれがアイデアを出し合って和気藹々と取り組んでいました。

三つ目の仕事は、避難所にいる子ども達と係わることです。子ども達と言っても、年齢には幅があって、小学年齢から高校生までが避難生活を送っていました。保護者の方々は、学生達が教育大から来ていることを知って、出来たら日中暇をもてあまして自分の子どもに勉強を教えてやってくれ

## 石巻支援学校の支援(学生によるプレゼン用ポスター)



避難所の皆さんの気持ちに  
ほっとしてもらえますように

### 石巻支援学校での支援活動

宮城教育大学  
藤原 結香 櫻田 翔子

被災地:石巻市



○人口約16万 ○死者数:3161 ○行方不明者数:793  
○避難者数:1868 ○避難所数:59  
○住宅、建物被害(全壊数+半壊数):22419 平成23年9月1日現在

### 状況

- 避難所生活:不安定、体調悪化
- 在宅:(ほとんどの重度障がいの子どもたちは在宅)水・支援物資が届かない(取りに行けない)ライフラインの崩壊(停電の恐怖!)急激な生活環境の変化
- 慢性的な運動不足・身体機能低下(拘縮の進行、苛々感の増大、自傷、発熱)コミュニケーション環境の質的低下(不安、恐れ、寂しさ)

### 宮城県立石巻支援学校

- やや内陸部にあつて津波の被害を免れた。
- すぐに付近の住民、および在校生が避難してきた(元々は指定避難所ではなかった)。
- 校長の英断で避難所として開放。運営の実働を教員が担うことに…。ほとんどの職員が被災者。5日間救援物資届かず。
- オムツ支援で教員と学生が石巻を訪問した際に、学校に立ち寄る。支援の要請を受ける。大学に戻り、直ちに支援チームを結成。

### 支援活動

- 学生3~4名が1チームになって、2泊の日程で泊まり込み、10チームが入れ替わり、4月~ヶ月間入り込む。
- 食事・洗濯・清掃・布団干し・避難所にいる児童・生徒の学習支援や遊び支援・足湯手伝い・教員の業務補助・教室経営
- 支援イベント  
(PTによるリラクゼーション、病弱教育教員によるお話しとリラクゼーション)
- 避難所・家庭訪問



支援チーム



救援物資の受け取り



子どもたちとの係わり



清掃



TBSドラマ「赤鼻のセンセイ」  
昭和大学院内学級の副島賢和先生が石巻へ



支援学校よりどころに  
2次避難へ  
ストレス懸念

和を

東北新聞2011/04/25



ないか、と頼みに来られました。多くの避難者は日中、避難所を出て役所に向いたり、倒壊した自宅へ荷物を整理に行ったり、あるいは行方不明者の探索に向いていた方もいたようです。子ども同伴で出かける人もいれば、老人を伴って避難している場合には、その老人に子どもの面倒を見てもらっている家族もありました。進学校に通う生徒もいて、授業の休みが続くことに不安を抱いていました。そこで空き教室を借りて、即席補習教室が開始されました。

以上のような支援活動を4月いっぱい行い、石巻支援学校は5月12日に学校再開に至りました。毎回、2泊3日の行程を終えた学生を迎えにいくと、私たちは仙台への帰途に可能な限り、沿岸地域を通過して帰るようルートを選びました。焼けこげた門脇小学校の校舎、プールに乗用車が頭から突っ込んだ状態で浮いている湊小学校、その壁にくっきりと残る津波の跡、流され横転した家屋、スクラップになった無数の車、瓦解した石巻中心部・・・市内へと車を進めるうちに、学生が座る後部座席から談笑の声が消え、沈黙が走り、そして時に鼻をすする音が聞こえ始めます。その圧倒的なまでの崩壊の風景を目の前にして、それをリアルタイムで体験した人々がさっきまで一緒にいた避難者であったことを、そしてその避難者から語られた言葉が、学生の頭の中で駆け巡っていたことと思います。支援の様子は河北新報でも取り上げられました。

## 中野小学校の支援(学生によるプレゼン用ポスター)



### 教育復興支援ボランティア活動について

#### 仙台市立中野小学校

宮城教育大学 木田 武宏 丹野 大輝



### 中野小学校の紹介

**震災前**



美しい干潟が近くにあり、環境教育を実施するには最適な場所に立地していた。そのような自然豊かな環境の中で地域の方々と共に子どもたちは明るく元気に学校生活を送っていた。

**震災直後**



学校がある蒲生地区は大津波により被災し、人が住める状態ではなくなりました。また、学校が教育活動の場としての機能を果たせなくなりました。現在、近隣の中野栄小学校の校舎を一部借用して教育活動を行っています。

### ボランティアをした経緯

学生の一人が理科の研修生(CST)として昨年度から中野小学校で活動していた。震災直後、少数の有志でボランティア活動を行っていたが、子どもたちの支援を充実させるため、本大学を中心に36人のボランティアチームを形成した。



### 教育大としての役割



### 活動内容

活動期間: H.23.5.16~

- 学習支援**
  - 子どもたちの学習サポート
  - 放課後、スクールバスが到着するまでの30分程度の時間を利用
  - 家庭科室を会場に曜日毎に「学び塾」と「遊び塾」を行っている。
- 行事の補助**
  - 運動会や学習発表会などの行事の補助。
  - 昨年までと変わらない環境で行えるように子どもたちの活動を支援。



### 今後の活動

学習支援や寺子屋の活動をより充実させていきたい。今年度だけではなく、長期間に渡って活動を続けていきたい。



### 活動を通して学んだこと

将来、教師を目指す身として、子どもたちの実態をよく観察することで、教師としての使命を改めて知ることができた。また、支援を通して積極的に子どもと教師がコミュニケーションをとることが大切であると学ぶことができた。子どもたちとの触れ合いを通して、私たち自身、元氣と希望をもらっている。





## 2 物資等の支援

物資の支援も震災当初からの大きな活動となっていた。他大学やユネスコ関係団体等から届いた食料、生活物資及び文具を中心とした支援物資を、宮城県下の被災した教育委員会・学校に搬送することとし、その方法として、本学ホームページに、学校支援ポータルサイトを設置し、そこに支援提供可能なものを提示し、要請のあった学校等に物資等をお届けするという、あくまで押し売りにならない方法により実施した。

児童・生徒向け学用品等の支援が主なものであったが、その他支援側の気付かなかったニーズとして、教師向け事務用品の不足の声が学校再開と同時にたくさん寄せられ、文具の提供を申し出ていただいたNPOの協力のもと、「教師のお道具箱（体温計、電卓、ホッチキス、定規等、付箋紙等）写真参照」を急遽揃えて提供するなどの活動も行った。



学習支援バック



教師用お道具箱



感謝のお便り



仕分け風景



掃除道具贈呈

### 3 セミナーの開催

一方、被災地にある教員養成大学として、今回の震災をどう伝え、この教育支援活動をどう残していくかが大きなポイントとなることから、被災地の学校現場の先生や、行政に携わる方々から、被災の状況や子どもたちのその後の変化を報告いただき、情報を共有し、今後の学校支援について、大学として、一人ひとりとしてできることを考えていく場として、「未来づくりセミナー」を定期的を開催し、刻々と変わる被災地からの要請と今後の支援体制の在り方を発信していくこととしている。

また、世界の中でも、太平洋を取り巻く諸地域では、地震津波や火山による災害が頻発しており、原発災害を含めて、まさに今回の被災地にある本学が今回の経験を積極的に語り継ぐ責任を負っており、国際的な情報共有や討論を行なっていくこととしている。 (セミナーの報告書は、別冊印刷)

#### 未来づくりセミナー 一覧

開催日	タイトル	おもな内容	参加者
6月4日 (第1回)	震災復興と学校・地域の未来づくり	4名からの被災状況現地報告及び子供たちの変化の報告とディスカッション	約400名
6月25日 (第2回)	震災からの再生×生物多様性×ESD	5名から報告と問題提起、その後、会場でのワークショップ	約150名
7月31日 (第3回)	生態系の保全といぐねの役割	いぐねの役割等について報告、その後、体験プログラム、生態系の復元作業及び除塩作物の定植	約70名
9月10日 (第4回)	震災復興と学校・地域の未来づくり	学校現場の報告とインターネット中継によるインドネシア・アチェ州、中国・四川省からの活動報告「学校防災と地域防災のつながり」の講演とグループ毎のワークショップ	約70名
10月29日 (公開研究会)	不登校支援と震災後の心の支援	震災後の児童・生徒への支援の取組報告と意見交換「震災と心の学校生活支援」の講話	約100名
11月12日 (第5回)	震災復興支援ボランティア報告会	活動して思ったことを語り合おう(詳細は、学生ボランティア派遣事業に記載)	約150名
12月10日 (第6回)	学校と地域コミュニティー～地域の未来づくりを考えるWS～	被災地石巻市の石巻北上十三浜・子育て支援センターにおいて、元学校長の講話と地域住民や子どもたちによる地域状況や体験の報告	約30名
1月18日 (第7回)	ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼	被災地気仙沼市において、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会等と連携し、ユネスコスクール間の地域交流や復興の中での子供たちの取り組み等についての事例発表と韓国及び米国の学校長等との国際交流	約160名
2月5日 (第8回)	環境フォーラムせんだい2011～“環境”震災で見えてきたこと	仙台広域圏ESD・RCEを構成する各団体等における被災地等における活動のパネル展示と報告等	約1,000名
3月(予定) (第9回)	復興計画の情報共有&国際シンポジウム	(検討中)	

## ○第1回チラシ

- 仙台広域圏RCE 未来づくりプロジェクト
- 宮城教育大学 みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト



このチラシは地球環境基金の  
助成を受けています。

## 第1回 未来づくりESDセミナー

# 震災復興と 学校・地域の 未来づくり

日時 6月4日(土) 13:30~16:30

場所 宮城教育大学 220番教室

〈対象〉 学生・教員・NPO・一般

## スケジュール

- あいさつ 宮城教育大学・学長
- 現地報告
  - 気仙沼市教育委員会・副参事 及川 幸彦氏
  - 石巻市立雄勝中学校・校長 佐藤 淳一氏
  - 仙台市立荒浜小学校・校長 川村 孝男氏
  - 巨理町長瀬小学校・教頭 渡辺 清孝氏
- パネルディスカッション
  - コーディネーター
  - パネラー／現地報告者
  - コメンテーター／本学教員
- 閉会のあいさつ  
仙台広域圏ESD・RCE運営委員会委員長



○第4回チラシ

第4回 未来づくりESDセミナー

# 震災復興と 学校・地域の 未来づくり

国を超えた  
共有から復興へ  
開発教育を通じた  
復興支援



3.11東日本大震災によって、自然災害の克服という世界規模の「課題」に直面したわたしたち。今後どのように考えて、どう行動すべきなのでしょう？インドネシア・アチェ州や、中国・四川省と連携しながら、それぞれの思い、被災地における教育・心のケア活動などの現状・方法・実践事例を共有し、今後のアクションにつなげます。

日時 平成23年  
**9月10日** 土  
13時00分から17時00分まで  
(12時30分受付開始)

場所 宮城教育大学管理棟  
大会議室/中会議室

主催：宮城教育大学教育復興支援センター、  
仙台広域圏ESD・RCE運営委員会、  
国際協力機構東北支部 (JICA東北)  
後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、  
岩手県教育委員会 (予定)  
協力：気仙沼市教育委員会、陸前高田市教育委員会 (予定)

Step 1

## 知る

3.11東日本大震災

◎岩手県陸前高田市

中里 勝明 氏 (陸前高田市立気仙中学校教諭)

◎宮城県気仙沼市

昆野 光行 氏 (気仙沼市立鹿折小学校教諭)

2004.12.26 スマトラ沖大地震 インターネットで現地と結びます

◎インドネシア アチェ州

ムザイリン アファン 氏 (ジャクアラ大学講師)

永見 光三 氏 (JICA東北震災復興担当)

2008.5.12 四川大地震 インターネットで現地と結びます

◎中国 四川省

「JICA 四川大地震復興支援

—こころのケア人材育成プロジェクト」より

Step 2

## 考える

ショウ ラジブ 氏

(京都大学大学院地球環境学堂  
国際環境防災マネジメント論分野 准教授)

意見交換

Step 3

## 行動する

教育関係者をはじめ、一般市民、  
学生の参加をお待ちしております。  
会場の席には限りがありますので、  
早めにお越しください。

入場  
無料

お問い合わせ JICA東北

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1仙台第一生命タワービル15階  
TEL:022-223-4772 市民参加協力課 高橋依子、三又英子 E-mail:jicathic-coordinator1@jica.go.jp



# V

# 教育復興支援センター

その後の大学の対応として、5月2日に「災害対策本部」を「教育復興対策本部」とし「地域への教育復興対策基本方針」を制定し、教育復興への方向性を明確にし、この基本方針にそって教員養成大学のポテンシャルを生かし、中・長期的な教育復興支援をしていくための施策として、「みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト」を発展的に解消し、6月28日に「教育復興支援センター」を設置した。

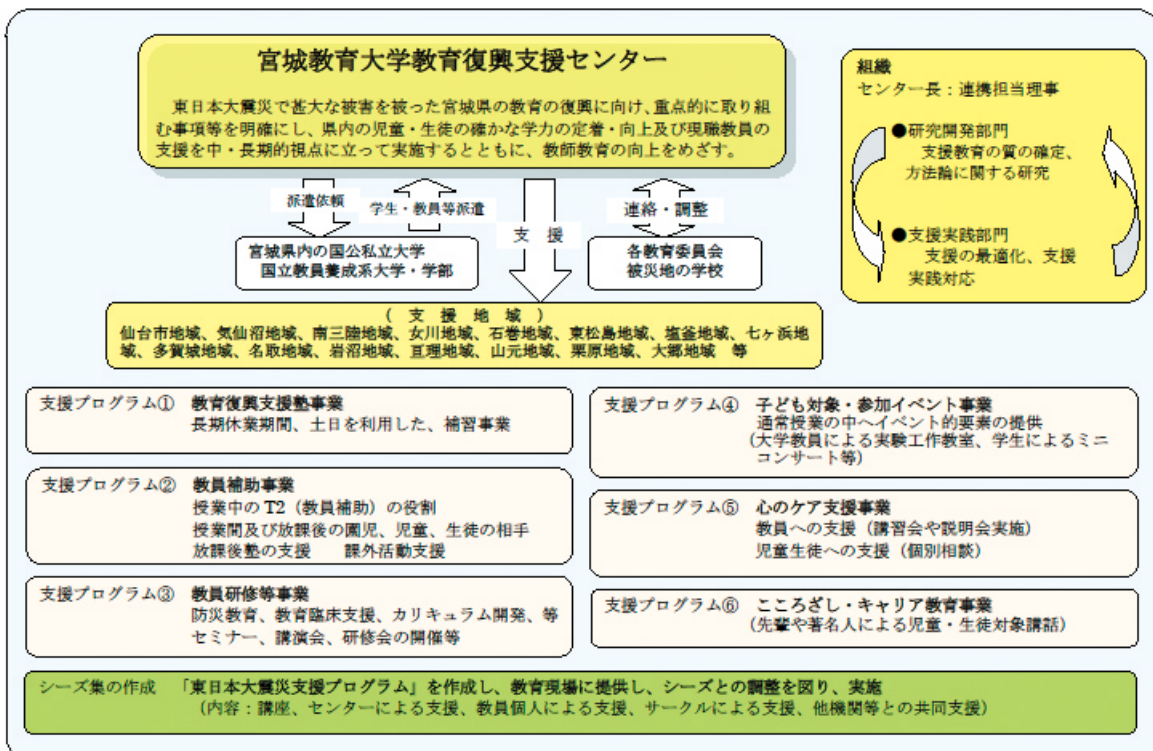
このセンターの目的は、宮城県の教育の復興に向け、地域自治体の復興施策内容を念頭に、重点的に取り組む事項等を明確にし、中・長期的視点に立って児童・生徒の心のケアや確かな学力の定着・向上及び現職教員の支援を実施することとしている。

設置に当たっては、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会並びに全国教員養成系大学及び学都仙台コンソーシアム加盟大学から、センター事業の内容についてあらかじめ賛同を得たものであり、学都仙台コンソーシアムで実施する「復興大学」事業（文部科学省「平成23年度大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」採択）の4つの柱の一つとして位置づけられている。両教育委員会との連携のもと被災地域の支援ニーズを押さえ、県内の国公私立大学や全国の教員養成系大学・学部と連携・協働して学校等に実際の支援プログラムを提供することとしている。



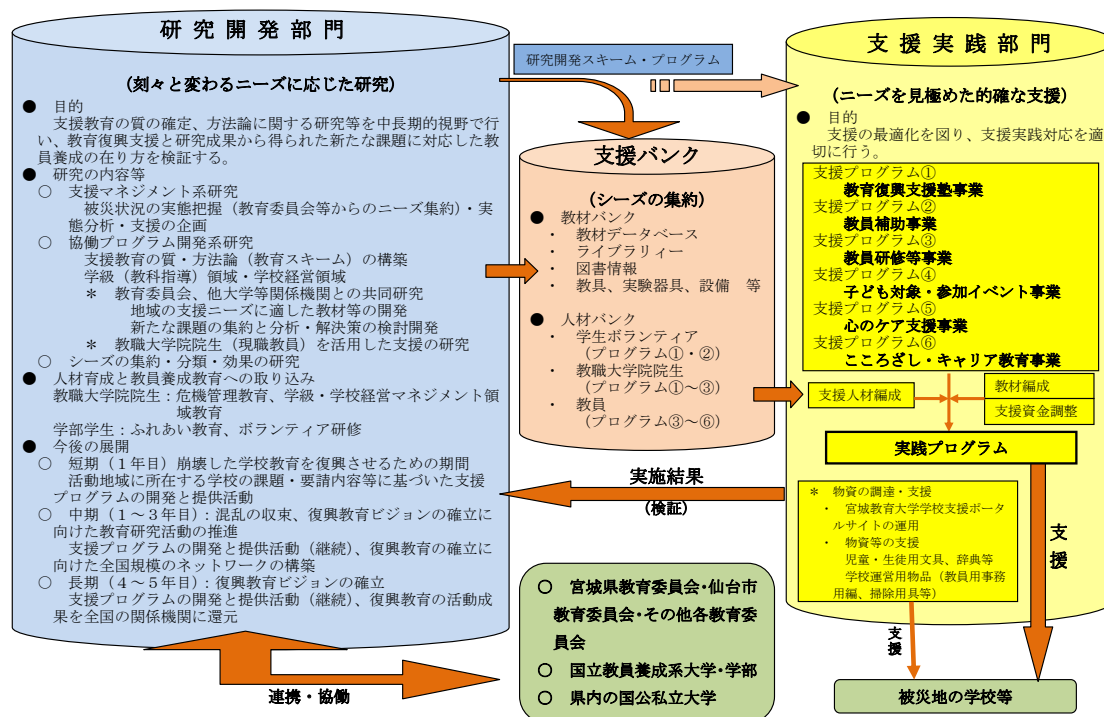
センターパンフ等

教育復興支援センター



# 1 研究部門と支援実践部門

センター内に、研究開発部門と支援実践部門を設置し、両部門の往還による適確な支援プログラムを提供することとしている。研究開発部門においては、被災状況の実態把握（教育委員会等からのニーズ集約）・実態分析・支援の企画及び支援教育の質の確定、方法論に関する研究等を行い、地域の支援ニーズに適した教材等の開発、新たな課題の集約と分析・解決策の検討開発等を行い、併せて、教育復興支援と研究成果から得られた新たな課題に対応した震災復興人材の育成と教員養成教育への取り組みを行うこととしている。支援実践部門においては、各地域での様々な支援ニーズに適合するよう、支援プログラムの最適化を図り、支援人材及び教材等を編成し、支援対応を適切に行うこととしている。



# 2 実施体制・人員配置

教育復興支援センターセンターに、次の職員を配置し、宮城県・仙台市両教育委員会、地域の教育委員会及び各学校等との連携を密にした研究や支援を行うこととした。

事務処理については、当面、研究・連携推進課及び学生課が協働で支援することとしている。

- センター長
- 特任教員（研究開発部門：1名、支援実践部門：4名）
- 兼務教員（本学の教員から：若干名）
- 事務職員（常勤：1名、非常勤：1名）



### 3 拠点(ブランチ)の設置とテレビ会議システム・教材ソフト

仙台市中心街、気仙沼市及び岩沼市近辺に拠点(ブランチ)を設け、被災地のニーズの収集や支援の調整を行うべく準備を進めている。

また、支援に必要な教材ソフトの取り揃え及び拠点(ブランチ)を効果的に活用するためのテレビ会議システムを準備し、次年度からの支援の環境整備等を図っている。

#### 1) 教材ソフトウェアの利用

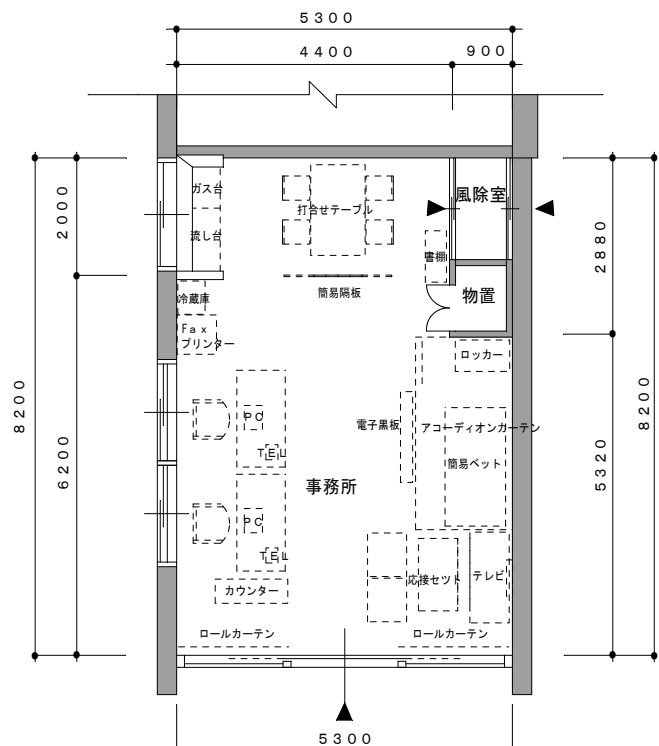
- 手薄になった教育拠点の再生事業
  - 教員研修
  - 教材作成支援・教育方法支援
  - ボランティアセンターでの家庭学習支援
- 各学校への最新端末の一時的貸出
  - 最新 PC に教育用ソフトを盛りこもり
  - 教育実践活動
  - 教材情報の入手と利用
- 復興支援センター内での学校支援活動
  - ボランティアの活動支援
  - 支援活動の事前・事後指導
  - センター教員による教材開発



宮城教育大学教育復興支援センター気仙沼事務所 (仮称)  
(宮城県気仙沼市八日町1丁目4番12号)

#### 2) テレビ会議システムの利用

- 気仙沼・仙台市内・岩沼3支援拠点と復興支援センターを結ぶオンライン会議
  - 迅速、円滑な支援内容の検討、情報共有、教育相談
  - 時間短縮、出張費用の圧縮
- 各拠点で行なっている講演、授業の配信
- 被災地学校間の交流授業
- 復興支援センター教員と地域学校教員との意見交換と教育支援
- 復興支援センター教員とボランティアとの支援相談

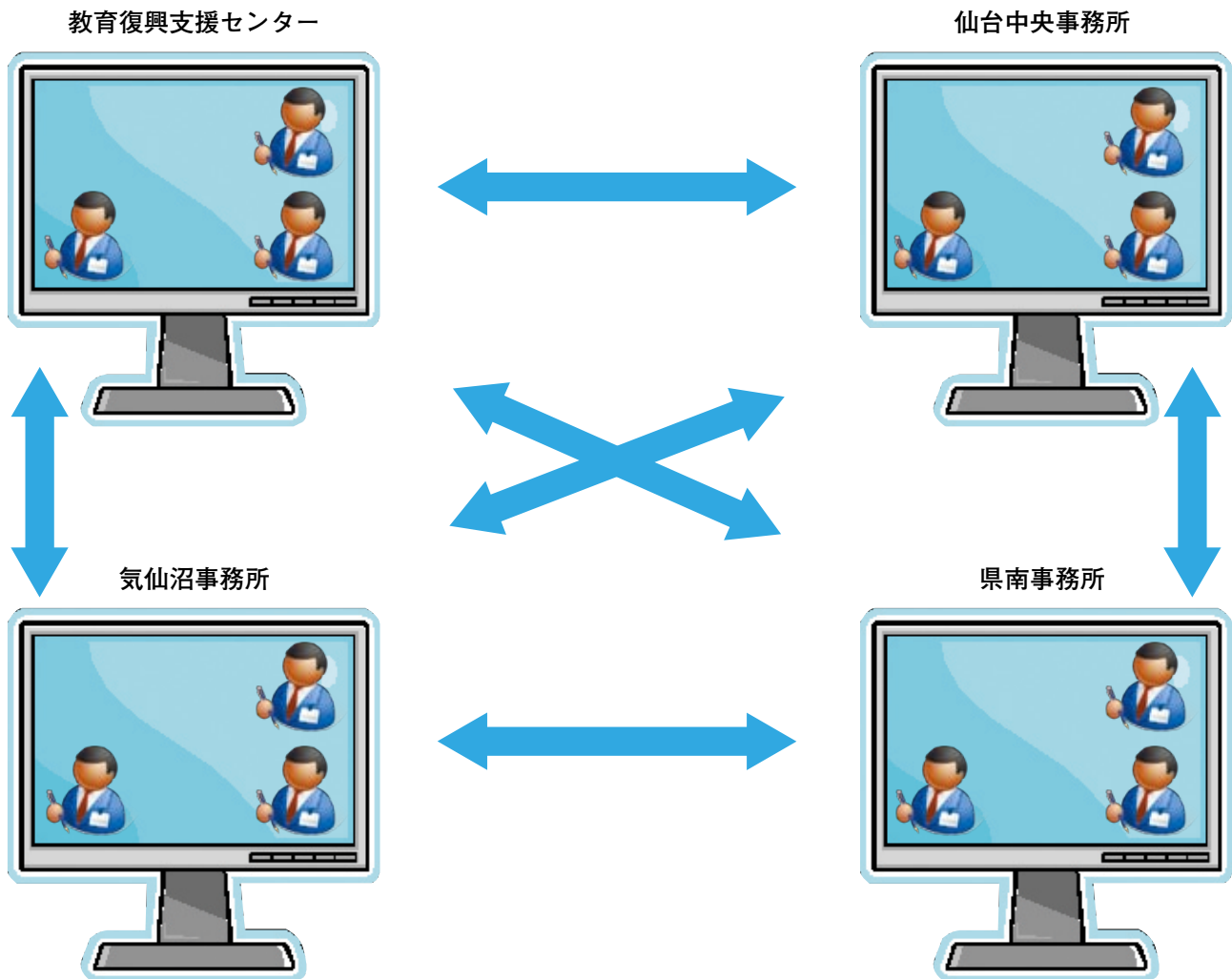


\* 地域学校等からのニーズがあった教材ソフト等

製品名	数量
Office Professional 2010 アカデミック版	10
Office for Mac Academic 2011 アカデミックパック	10
iPad 用 Keynote	120
iPad 用 Pages	120
iPad 用 Numbers	120
Adobe Creative Suite 5.5 Master Collection win	10
Adobe Creative Suite 5.6 Master Collection mac	10
表現活動支援ソフト 伝えるチカラ PRESS	5
小学校向け 教育用統合ソフト キューブきっず 3	5
小学校向け 教科単元支援ツール スキップ	5
個別ドリルシステム ぐんぐんのびる個別ドリルシステム	5
デジタル提示教材 カンタン！生物育成	5
中学校向け 教育用統合ソフト キューブ NEXT3	5
連絡メールシステム キュート連絡網 3	5
ジャストスマイル 4 @フレンド	5
ホームページ・ビルダー 16 ビジネスパック	10
エディウス J /R.2	10
一太郎 2012 承 スーパープレミアム 通常版	10
デジタル教科書 新しい理科 東京書籍	5
デジタル教科書 新しい算数（全学年セット） 東京書籍	5
デジタル教科書 国語（全学年セット） 東京書籍	5
問題データベース 算数 東京書籍	5
小学校算数シミュレーション（4、5、6年） 東京書籍	5
小学校算数シミュレーション ver3（4、5、6年） Plus 東京書籍	5
スクールプレゼンター 小学校理科「天気の変化」 ウチダ	5
ハイパーワイド版 歴史資料集 ウチダ	5
学校で今すぐ役立つパソコン活用 13冊セット プラス	5
テスト文例 CDROM1,2,3	プラス
メディア 5 STEP2 小学校理科 4,5,6年 PLUS	5
宇宙の観察 アストロジャ プラス	5
お気軽図書館システム 5.0 テクノウイングス	5
デジタルスタディシリーズ（中学校1年～3年） がくげい	5
QA-Navi2（アカデミック版） スキャネット	5
Video Studio Ultimate X4 COREL	10
一太郎特選テンプレート&イラスト集（学校・教育） ジャストシステム	5
アレンジ OK! 素材集 2 通常版 ジャストシステム	5

## \* テレビ会議の利用

■双方向的意見交換 ■双方向的指導助言 —リアルタイムでの復興支援

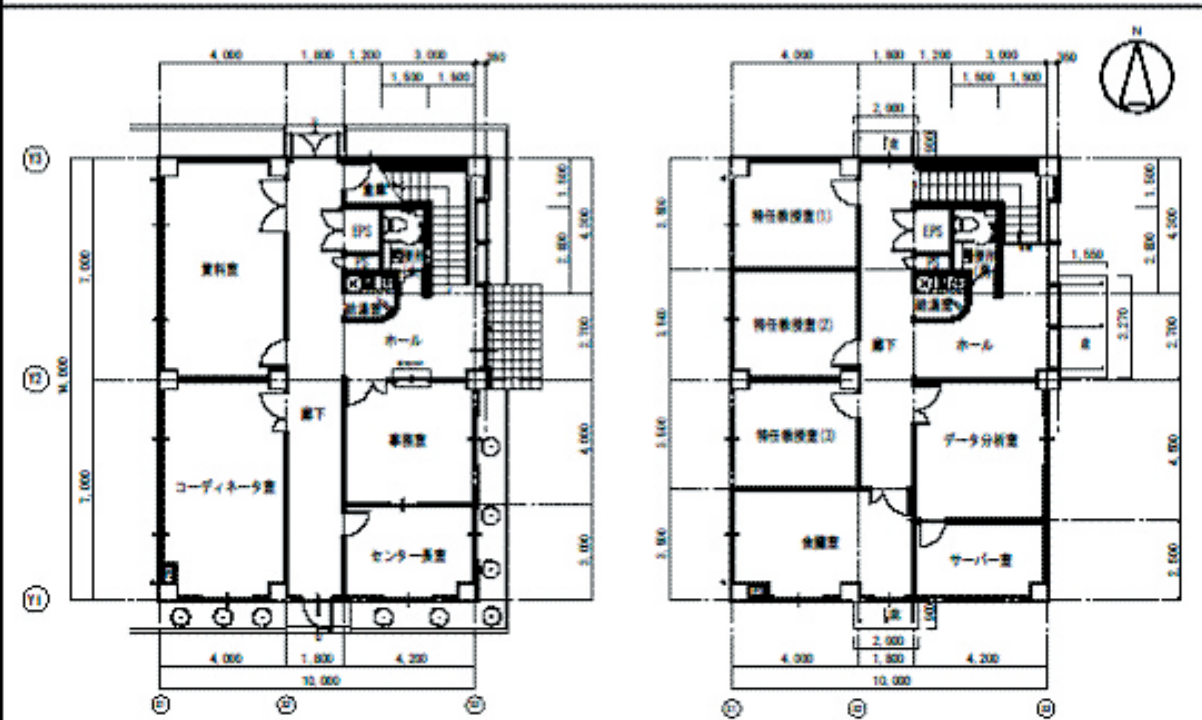
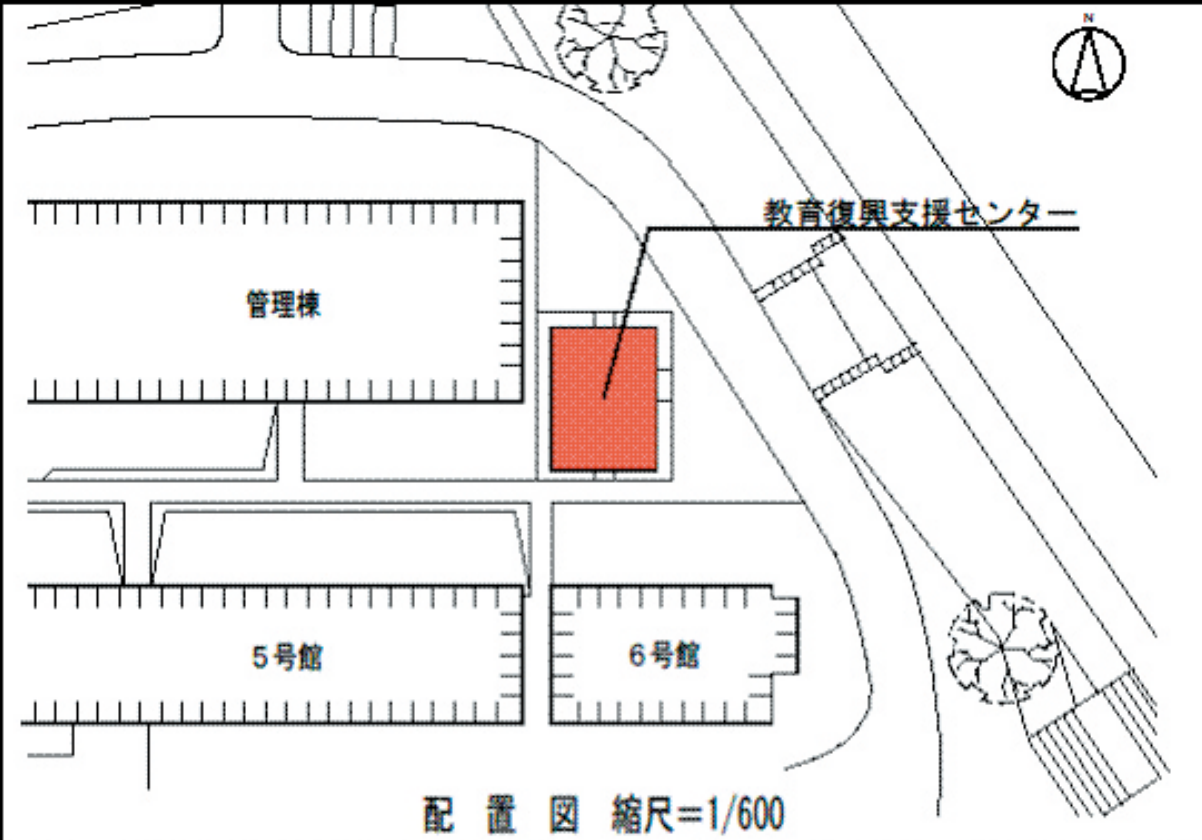


## 4 センター棟の新設

センターによる教育復興支援を迅速かつ的確に実施する上で必要な研究スペース（支援教育の質と方法論の確定）、支援のための実践プログラムをコーディネートするスペース、実践プログラムに導入する教材・資料設置スペース、人材データ等支援情報を管理するスペース等を整備することにより、被災学校のニーズに合致した教育支援を効果的に実施でき、自治体等による復興施策を側面的に支援できる。また、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、全国の11教育大学等との連携により、学校現場のニーズを反映した支援プログラムの開発、人材支援のためのマネジメントなど、被災に関わる広域的教育支援を一括・協働的に実現するための“拠点”としての機能を持つセンター棟が、文部科学省から平成23年度第3次補正で認められた。

この教育復興支援センター棟は、平成25年2月竣工を目指している。

宮城教育大学（青葉山）教育復興支援センター【案】



1階平面図 140m<sup>2</sup> 縮尺=1/200

2階平面図 140m<sup>2</sup> 縮尺=1/200



## 5 ホームページの整備

情報の発信を的確に行うため、平成24年4月運用に向けて、教育復興支援センターのホームページを作成し、運用することとした。



V 教育復興支援センター

## 6 6つの支援プログラム

センターにおいては、震災で甚大な被害を受けた地域・学校の教育環境の劣悪化に伴う児童・生徒等の学習意欲の低下、家庭環境の変化による子どもの心的ストレス、また、刻々と変わる教育現場のニーズに対応した支援として6つの支援プログラムを示し、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会との連携のもと、各教育委員会や学校からのニーズを把握し支援を実施している。

### 支援プログラム①

教育復興支援塾事業  
長期休業期間、土日を利用した、補習事業

### 支援プログラム②

教員補助事業  
授業中のT2（教員補助）の役割  
授業間及び放課後の園児、児童、生徒の相手  
放課後塾の支援 課外活動支援

### 支援プログラム③

教員研修等事業  
防災教育、教育臨床支援、カリキュラム開発、等  
セミナー、講演会、研修会の開催等

### 支援プログラム④

子ども対象・参加イベント事業  
通常授業の中へイベント的要素の提供  
(大学教員による実験工作教室、学生によるミニコンサート等)

### 支援プログラム⑤

心のケア支援事業  
教員への支援（講習会や説明会実施）  
児童生徒への支援（個別相談）

### 支援プログラム⑥

こころざし・キャリア教育事業  
(先輩や著名人による児童・生徒対象講話)



支援実績の検証等を踏まえ、ニーズに応じた最適な実践プログラムで県内の国公立大学や全国の教員養成系大学・学部と連携・協働しながら支援を実施



# 学生ボランティア派遣事業

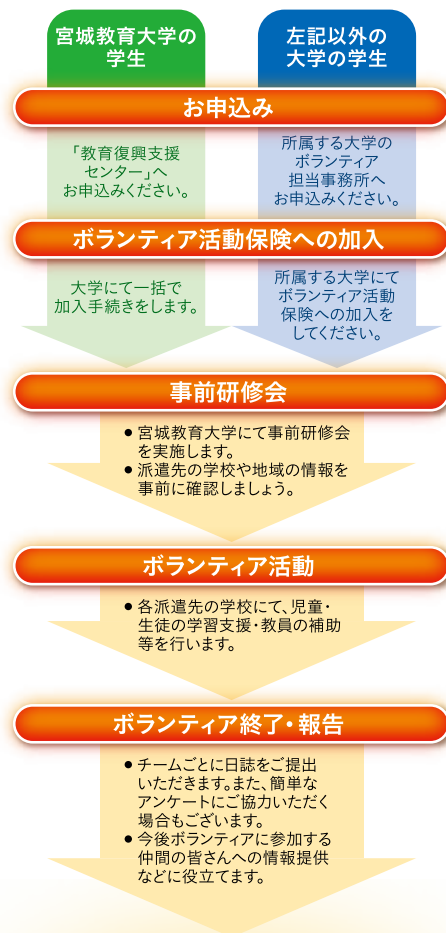
## 1 夏休みの取組

夏休みの支援ニーズとしては、各学校が実施しているサマースクール等での学習支援が主なものであった。具体的には、学校で用意したプリントでの学習や児童・生徒が各自準備した学習教材を使用した自主学習への支援、教師が行う補習授業でのT2、T3（教員補助）活動、学生による補習学習の実施（指導案等を作成して実施）であった（別記3参照）。7月下旬から9月にかけて、36の事業に学生ボランティアを延べ1,190名余り、実人数で445名を派遣した（9月30日現在）。教育復興支援センターの設置については、全国の国立教員養成系大学や学都仙台コンソーシアムからの賛同を得て立ち上げたもので、今回の実施にあたり、県内の国・私立大学（3大学）、全国の国立教員養成系大学・学部（8大学）から、実人数で120名の派遣・協力を得て実施したものである。本学や他大学の学生ボランティアが合同や単独でチームを作り、その中でリーダーを決めて、指示系統を統一し、毎日、支援グループ毎に日誌を記し、その日を振り返る時間を設けられるような体制での支援を実施した。

支援地域は、生活拠点が壊滅的ダメージを受けている地域が多く、宿泊先の確保や交通手段が限定されており、他大学からの支援学生には、学内合宿所や臨時宿泊所を設置して対応し、また、支援ニーズが午前中（9時前後～）に集中しているため、移動手段としては最寄り駅からのタクシー利用が主要な手段とならざるを得なかった。

学生ボランティア派遣事業については、学生の教育実践力と人間力の向上にも効果が期待されていますが、参加学生からの感想をお読みいただければその一端が感じ取れる。

### 学校支援ボランティアの申込みから活動終了までの流れ



あたたかいご支援・ご協力  
ありがとうございました！

Ⅳ 学生ボランティア派遣事業



○学校支援ボランティア実施結果(7月21日～9月30日分)

	実施場所	実施日(日数)	実施内容	延人数 (他大学)	実人数 (他大学)
1	七ヶ浜町立 七ヶ浜中学校	7月25日～29日、 8月1日～3日(8日間)	プリント学習での質問への対応	50 (28)	14 (9)
2	松島町立 松島第一小学校	7月25日～7月27日 (3日間)	自学自習への支援	23 (5)	14 (2)
3	松島町立 松島中学校	7月25日～7月29日 (5日間)	自学自習への支援	41	23
4	仙台市立 七郷中学校	7月25日～7月29日 (5日間)	プリント学習での質問への対応	34	16
5	東松島市立 矢本東小学校	7月25日～27日、 8月18日～19日(5日間)	自学自習への支援	23	12
6	東松島市立 大曲小学校	7月26日～7月29日 (4日間)	自学自習への支援	16	10
7	東松島市立 矢本西小学校	7月26日、7月28日 (2日間)	自学自習への支援	4	4
8	東松島市立 矢本第二中学校	7月26日～7月29日 (4日間)	自学自習への支援	14 (3)	10 (1)
9	東松島市立 鳴瀬第二中学校	7月26日(1日間)	自学自習への支援	2	2
10	東松島市立 大塩小学校	7月21日～7月22日 (2日間)	自学自習への支援	4	2
11	大崎市立 松山小学校	8月22日～8月24日 (3日間)	サマースクールへの支援	19 (5)	11 (4)
12	大和町立 大和中学校	8月1日～8月5日 (5日間)	自学自習への支援	47 (42)	16 (14)
13	大和町立 宮床中学校	8月1日～8月5日 (5日間)	自学自習への支援	47 (37)	17 (13)
14	巨理町立 逢隈中学校	8月1日～2日、 4日～5日、8日～9日(4日間)	自学自習への支援	35 (24)	13 (6)
15	東松島市立 矢本第一中学校	8月1日～8月4日 (4日間)	自学自習への支援	42 (32)	14 (8)
16	女川町立 女川第二小学校	8月1日～8月3日 (3日間)	補習授業の補助	27 (27)	9 (9)
17	女川町立 女川第一中学校	8月1日～8月3日 (3日間)	補習授業の補助	32 (24)	11 (8)
18	宮城県 本吉響高等学校	8月2日～8月5日 (4日間)	自学自習への支援	19 (16)	5 (4)
19	大崎市立 古川東中学校	8月4日～5日、 8日～10日(5日間)	サマースクールへの支援	37 (16)	24 (8)
20	宮城県 志津川高等学校	8月8日～8月12日 (5日間)	自学自習への支援	38 (35)	8 (7)
21	名取市立 閑上中学校	8月1日～5日、 8日～11日、18日(5日間)	自学自習への支援	106 (2)	52 (1)
22	七ヶ浜町立 向洋中学校	8月17日～19日、 22日～23日(5日間)	教員補助	33 (10)	11 (2)
23	相馬市立 磯辺中学校	8月17日～8月19日 (3日間)	補習学習	13	8
24	気仙沼市立 唐桑中学校	8月18日～8月19日 (2日間)	自学自習への支援	12 (4)	6 (2)

# VI 学生ボランティア派遣事業

	実施場所	実施日（日数）	実施内容	延人数 (他大学)	実人数 (他大学)
25	気仙沼市立 松岩中学校	8月18日～8月19日 (2日間)	自学自習への支援	17 (10)	9 (5)
26	気仙沼市立 津谷中学校	8月18日～8月19日 (2日間)	自学自習への支援	10 (6)	5 (3)
27	石巻市立 飯野川中学校	8月20日（1日間）	教育夏祭り 2011IN 東北 への支援	10	10
28	岩沼市 (市総合体育館)	8月22日～8月24日 (3日間)	補習授業、自学自習支援	27	10
29	大崎市立 富永小学校	8月22日～8月24日 (3日間)	サマースクールへの支援	33 (9)	13 (3)
30	南三陸町立 伊里前小学校	8月29日～9月2日 (5日間)	教員補助	27	6
31	宮城県石巻好文館 高等学校	8月8日～8月10日 (3日間)	自学自習への支援	13 (3)	8 (1)
32	国立花山青年自然 の家	8月17日～8月20日 (4日間)	気仙沼市被災児童への 「KAWTABI サマー スクール」支援	12	3
33	東松島市立 鳴瀬第二中学校	8月26日、8月28日 (2日間)	運動会への支援	40	20
34	南三陸町立 名足小学校	8月29日～9月2日 (5日間)	教員補助	15	3
35	栗原市立 志波姫中学校	8月17日～8月21日 (5日間)	補習学習	53	18
36	大郷町立 大郷中学校	8月19日～8月21日 (3日間)	補習学習	20	7
37	岩沼市立 玉浦小学校	9月5日～9月30日 (18日間)	教員補助	74 (31)	7 (8)
38	岩沼市立 玉浦中学校	9月5日～9月30日 (18日間)	教員補助	66 (47)	3 (13)
39	相馬市立 中村第二中学校	9月26日～9月30日 (5日間)	教員補助	55 (55)	11 (11)
合 計				1,190 (471)	445 (142)

## ○ボランティア参加学生の感想等(抜粋)

### ○群馬大学のA子さん（女川町地区） 初日の感想から

震災が起こったことを感じさせないくらい‘普通’に教育実習に来ているようでした。時間の経過もありますが、生徒と先生と一緒に力強く乗り越えてきたからこそ今の今があるのだと思いました。あとの二日間も大切にしながら、多くのことを学んできたいと思います。

### ○群馬大学のB男さん（女川町地区） 初日の感想から

子どもたちは、とても元気で明るかったです。先生方も、一生懸命に指導なさっていました。笑顔が授業中はとても多かったです。一日目として、学生達は、学校に入る直前に見た町の姿とまるで反対の子どもたちの明るさに、安心したとの声がありました。また、学力差（震災の影響というわけではなく、どこにでもある学力差）や子どもたちへの休み時間での距離感についてということ等を学習支援終了後に、宮教大の教職大学院の先生を含め、反省会で話し合いました。一日目より二日目の支援がよくできるようにしたいと思います。

### ○群馬大学のC子さん（女川町地区） 初日の感想から

いきなり黒板の前で解説することになったり、なかなか生徒の話に入りづらい雰囲気であったり、自分はまだまだ足りないところがあると感じました。NHKの取材も入ってなかなか普通ではない感じなので緊張しました。でも子どもたちがかなり素直なようなので、残り2日頑張って信頼関係を築きたいと思います。

### ○宮教大のC子さん（松島町地区）の3日目の日誌から

連日の訪問で生徒と少し打ち解ける参加者も出てきて、うまくコミュニケーションをはかりながら楽しく勉強する様子も増えました。生徒からの質問も以前より活発になり、学習への意欲が感じられます。

### ○宮教大のD子さん（東松島市地区）の2日目の日誌から

2回目であるせいか昨日声をかけられなかった児童からも『先生』と呼ばれ質問をしてくれたのでとても嬉しかった。夏休みの課題が終わった児童もいたが遊ぶこともなく自習時間中は他の課題に取り組むなど集中していた。最後に全員から「ありがとうございます。」と言ってもらいとても嬉しかった。先生たちにも見送っていただき、別れの際は感無量であった。この2日間、大塩小学校の子どもたち、先生方と過ごすことができ、とてもよい経験となった。また機会があれば、是非行かせていただきたいと思う。

### ○宮教大のE子さん（東松島市地区）の2日目の日誌から

学習時間だけではなく、休み時間など少し子どもたちとかかわれる時間があつたらんと子どもたちの姿を見て強く感じられましたが、限られた時間の中でも精一杯過ごそうとも強く思いました。子どもたちの中に、「先生、僕たちのこと好き？」というようなことを聞いてきた子がいました。短い時間でしたが、子どもたちがそれぞれいろいろなことを伝えようとしてくれました。もっとここにいたい、また会いたい、かかわりたいと強く強く思いました。

### ○宮教大のF男さん（東松島市地区）の最終日の日誌から

4日間の学習を通して、集中する場面と休む場面のリズムを作って勉強する形が生徒の中でできていました。これを残りの夏休みの期間に継続して欲しいと思いました。4日間とも3学年合わせて100人くらいが集まり、課題に取り組んでいて、矢本一中の生徒の学習意欲の高さを感じました。こうした中で学主支援を行うことができ、私たちにとっても良い経験になったと思います。何がどのくらいできるか分からないままスタートしましたが、毎日充実して活動できて良かったです。



ボランティア活動風景



「申込み」



「事前研修会」



「仙台市立七郷中学校（教室環境づくり）」



「東松島市立大塩小学校（自学自習への支援）」



「東松島市立矢本西小学校（自学自習への支援）」



「相馬市立磯部中学校（補習学習）」



「東松島市立矢本東小学校（自学自習への支援）」



「女川町立女川第一中学校（教員補助）」

## 2 ボランティア報告会

本学を拠点として行った学生ボランティア派遣事業の取組やその成果と課題を互いに確認し合い、活動の声を全国に向けて発信していくための報告会を、11月12日（土）に開催した。

開催に当たっては全国の11大学（本学を含む。）から、代表学生によるその取組の報告、また、第2部では、実際にボランティアを受け入れた学校の先生や児童・生徒及び参加学生と大学の関係者によるパネルディスカッションが行われ、現場の生の感想や今後への期待などが披露されるなど、今後の活動に向けての課題等について共通認識を深めた。最後に、学生代表2名から

「学生一人ひとりの活動は小さなものだが、全国から学生がやってきて被災地の子どもたちを心配し、応援する地道な活動が積み重なって、子どもたちを健全な方向に導いていけないのではないか。」

（奈良教育大学 木下智彰さん）

「全国の学生が集まって、体験談や問題点を共有し、今後どういう活動が必要か、話合う機会をこれからも設けていきたい。」

（宮城教育大学 味水佳織さん）

との決意表明がなされ、より良い活動を模索しながら積極的に継続していくことが確認された。

被災復興支援ボランティア報告会

# 被災地の子どもと大学生

「活動して思ったことを語り合おう！」

日時 **11月12日** 13:00～18:00  
(開場12:30)

場所 **宮城教育大学**  
2号館220教室

主旨 東日本大震災後、宮城教育大学を拠点として震災復興支援活動を行った全国の学生が一室に会し、ボランティアの取組、成果、課題を話し合う報告会を開催し、学生の声を全国に向けて発信するものです。

内容

- 第1部 13:10～15:20 【報告会】
- 第2部 15:30～16:30 【パネルディスカッション】
- 第3部 16:45～18:00 【懇親会】 萩朋会館1階

【主催】宮城教育大学教育復興支援センター  
【共催】宮城教育大学学務実行委員会、仙台区復興ESD-RCE運営委員会  
【後援】宮城教育大学学生協議会、宮城教育大学同窓会



別冊で報告書を作成



## 目 次

No	大学名	タイトル	氏 名	頁
1	北海道教育大学	福島県相馬市立中村第二中学校での学習支援ボランティアを終えて	伊藤 悟士	2
2	北海道教育大学	私たちにできること	佐藤 真美	4
3	愛知教育大学	立ち直ろうとする力～宮城・玉浦中学校での生活を通じて～	富田 祥弘	6
4	大阪教育大学	日本中が1つに	上田 瑞歩、胡本 義宏	8
5	京都教育大学	私は福島を、宮城を、岩手を元気にしたい！	渡辺 玲	10
6	京都教育大学	ボランティアを通して	網田 洋志	12
7	奈良教育大学	宮城教育大学との連携による活動を通して	木下 智彰、朝田 真琴	14
8	福岡教育大学	被災地から学んだ事	畑 勇氣	16
9	福岡教育大学	「良い経験」で終わらせない	與田 くらら	18
10	群馬大学	「復興支援塾in女川町」に参加して	登川 希香	20
11	滋賀大学	子どもたちに寄り添うということ	入山 久美子	22
12	仙台大学	「まなびや」学習支援ボランティア活動報告	星 隼斗、山崎 えりな	24
13	東北大学	大学間の継続的な連携に向けて—東北大学生の経験から—	本山 敬祐、佐々木 耕太、川上 栞	26
14	東北福祉大学	子ども達とのかかわりの中で	三本杉 由香	28
15	宮城教育大学	ボランティア活動から学んだこと	遠藤 しおり	30
16	宮城教育大学	中野小学校ボランティアを通して	高木 詩織	32
17	宮城教育大学	生徒たちのために学生ボランティアができること	佐藤 梨奈	34
18	宮城教育大学	NPOアスイク 石巻支部での活動を通して	味水 佳織	36
19	宮城教育大学	ユネスコによる被災児童に対する支援活動	鈴木 耕平	38
20	宮城教育大学	ボランティア活動の意義	安齋 裕美	40
21	宮城教育大学	私にできること	井上 久李	42
22	宮城教育大学	伊里前小学校のボランティアを通して	横田 希子	44
23	宮城教育大学	初めてのボランティア	熊谷 真帆	46
24	宮城教育大学	松山小学校へのサマースクール支援	戸澤 香奈	48
25	宮城教育大学	学府くりはら塾に参加して	後藤 恭	50
26	宮城教育大学	未来を担う子どもたちとの出会い	高橋 周太	52
27	宮城教育大学	ボランティアは自己成長に繋げられる	高橋 遼	54
28	宮城教育大学	素直な子供たち	黒澤 千洸	56
29	宮城教育大学	輝く笑顔	佐々木 久枝	58
30	宮城教育大学	中野小学校学習支援ボランティア活動報告書	佐藤 愛里	60
31	宮城教育大学	海を見て	佐藤 美理	62
32	宮城教育大学	学校支援ボランティアを通して	佐藤 佑一	64
33	宮城教育大学	ボランティア活動を通して	三瓶 真実子	66
34	宮城教育大学	震災ボランティアを通して	山科 友理恵	68
35	宮城教育大学	古川東中学校ボランティア活動報告書	菅原 朱莉	70
36	宮城教育大学	ボランティア活動(炊き出し・学習支援)を振り返って	星 知美	72
37	宮城教育大学	進め！中野小学校	星 尚仁	74
38	宮城教育大学	学習支援ボランティアのまとめ	石郷岡 千晶	76
39	宮城教育大学	中野小学校学習支援ボランティア活動報告書	中村 沙也香	78
40	宮城教育大学	閑上中学校でのボランティア	渡邊 佳純	80
41	宮城教育大学	中野小学校でのボランティア活動を通して学んだこと	藤田 美穂	82
42	宮城教育大学	被災学校支援ボランティアを通して	島山 結衣	84
43	宮城教育大学	助け手として	福士 亮	86
44	宮城教育大学	荒浜小学校の震災復興ボランティアに参加して	峯田 清人	88
45	宮城教育大学	中野小学校でのボランティア活動報告	嶺岸 香菜	90
46	宮城教育大学	中野小に行って	鈴木 将也	92

## 資料

1	宮城教育大学	教員養成大学としての教育復興支援	芳賀 茂	96
2	仙台市立中野小学校	学生ボランティア活用計画		100
3	宮城教育大学	教育復興支援ボランティア活動について 仙台市立中野小学校	木田 武宏、丹野 大輝	101
4	宮城教育大学	石巻支援学校での支援活動	藤原 結香、櫻田 翔子	102



### 3 ボランティア総会

前述のボランティア報告会におけるボランティア学生からの意見等を受け、全国の学生が、その体験談や問題点を共有し、今後の活用に生かしていくため、また、次年度の活動に向けてのチームの方向性を共有するための機会として、ボランティア総会を開催することとした。

#### ボランティア学生全員集合！ 国立大学法人宮城教育大学 教育復興支援ボランティア総会

##### 趣 旨

東日本大震災から1年が経過し、次年度の活動に向けて、学生間の情報・意見交換を行うものです。

3月17日（土） 13：00～16：00  
場所：宮城教育大学菽朋会館 大集会室

対 象：本学学生、本学教育復興支援センターを經由して  
教育復興支援活動を行う大学の学生及び学校関係者の皆さま

内 容：●黙 禱

- 前 中野小学校長 伊藤 公一先生講演  
「3.11 あの日の記憶、そして今」
- 継続支援ボランティアチーム運営引継ぎ（中野小、東六郷小、荒浜小、七郷中）
- 春季ボランティア活動報告（東北学院大、奈良教育大、京都教育大、宮城教育大）
- 意見交換
- 決意表明（一部抜粋）

- 大学は様々ですが、子どもたちのため、教育現場のためという思いは、一致していることが分りました。大学間の支援情報やノウハウを共有化し、よりよい学校支援を行っていったいかなと思っています。
- ボランティア活動開始時の何か役に立ちたいという気持ちを思い出すことが出来ました。子どもたちは心の傷を見せないでいるだけなので、子どもたちの心に寄り添った活動を行っていききたいと思います。
- ボランティア活動で一番重要なことは継続することだと思います。そのためには、一方的なものにならないよう、子どもたちや先生方のニーズを把握し、また、学生自身も学び、成長していける活動にしていきたいと思っています。



## 4 現職教員のボランティア休暇を利用した支援

東日本大震災による被害程度は、学校により大きな差が生じたので、比較的被害の小さかった学校の教職員が、甚大であった学校にボランティア休暇を活用して支援の手を差し伸べたらどうだろうかと考え、仙台市内の2つの小学校長に声掛けをしてみたら、賛同を得た。

大学生と一緒に、被災地の子どもたちに寄り添った数名の先生方からは「いい経験になった。これからの教員人生に大いに役立つと思う」などという感想を頂き、またこれを受けた被災地の先生方からは「心身ともに休まり、大変心強く感じられた」などと感謝の言葉が聞かれた。

そこで今後は、この試みを関係方面に、働きかけてその推進に努めて行く必要を感じる取り組みとなった。

### 宮城教育大学学習ボランティアに職員が参加して

仙台市立吉成小学校 校長 菊地 博

平成23年8月、本校の20代の女性、30代の男性、40代の女性3名の教師が宮城教育大学の学習ボランティアに参加させていただきました。私からの急な呼びかけでしたが、すぐに「行ってみたいです」と応じてくれました。3日間の活動を終えての感想は、「子どもたちの学習したいという意欲を感じました」「私たちの目の前の子どもたちは被災者ではないけれど、同じような気持ちで今まで以上に日々の教育に力を入れていきたいです」等でした。

事実、その後彼らは、本校の教育活動の核になっていきました。20代の女性教諭は、本校の復興プロジェクト「東六郷小学校に本を送るプロジェクト」の推進メンバーとなり、全校児童による送る本130冊の決定、しおりの作成、図書ボックスの作製等を推進し、3月6日の現地校での贈呈まで中心となって頑張りました。また、他の2名の教諭は同学年担当として、子どもたちの心の教育に目を向け、仙台市の「たくましく生きる力育成プログラム」の試行や新しい形の授業の試行に取り組み、職員間に本校では心を育てるために新しい授業が必要という考えを醸成していくことに大きく貢献しました。

このボランティアは、被災校の児童生徒のためになるだけでなく、ボランティアに参加した教師の意識も大きく変えるものだと思います。今後も機会をとらえて、私も含めて活動に参加したいと思います。

## 5 9月以降の取り組み

夏休み以降においても、支援ニーズに応える形で学生ボランティア派遣事業を実施した。学生の授業期間中のため、他大学からの支援を極力避け、本学学生を主として実施した。

支援件数：21件（10月1日～2月28日）

支援ボランティア数：延べ367人、実人数113人

他大学からの支援：東北大学4 玉川大学1（計5人）

支援内容：自学自習への支援・・・11件

教員補助・・・・・・・・・・3件

イベント等の補助・・・・7件

### 教育復興支援センター活動(事業)実績(9月以降分)

整理番号	日程(予定)	実施場所	支援内容		募集(派遣) 実人数
			実施方法	教科	
1	10月中旬～ 継続 (年間)(週1回程度)	岩沼市立 玉浦小学校	教員補助		1
2	10月3日～ 継続 (年間)(週1回程度)	岩沼市立 玉浦中学校	教員補助		1
3	10月28日、 11月下旬	仙台市立 将監西小学校	学校支援プログラム(音楽教育講座) 仙台市立将監西小学校での総合学習 に対する支援		3
4	11月5日	岩沼市 岩沼西小学校	岩沼市市制40周年記念事業「理科 大好きフェスティバル」のブース活 動の補助(村松教授もブース参加)		10
5	11月6日	石巻市	全国生涯学習ネットワークフォー ラム2011 第一分科会 の補助		10
6	11月6日	文部科学省	全国生涯学習ネットワークフォー ラム2012 第五分科会 ブースセッ ションの出展		4
7	11月15日～3月21 日(週1回程度)	仙台市立 折立小学校	放課後の学習支援		8
8	12月20日	東北福祉大学	東日本大震災における東北地区大学 支援プロジェクト報告会		3
9	12月21日、26日	大崎市立 鹿島台中学校	自学自習支援	数学 理科	4
10	12月25日～27日	栗原市 教育委員会	自学自習支援(冬の学府く りはら塾)	国語 数学 英語	7
11	12月26日～28日、 1月4日～6日	岩沼市立 玉浦中学校	自学自習支援(冬休み勉強会)		4



整理番号	日程 (予定)	実施場所	支援内容		募集 (派遣) 実人数
			実施方法	教科	
12	12月26日、27日	岩沼市 総合体育館	自学自習支援 (ニコ・ニコ・ウィンタースクール)		8
13	12月26日、27日	大崎市立 真山小学校	教員補助		1
14	12月26日、27日	大崎市立 田尻中学校	自学自習支援	数学 英語	6
15	12月26日、27日	大和町立 大和中学校	自学自習支援 (たいわウインタースクール)	数学 英語	3
16	12月26日、27日	大和町立 宮床中学校	自学自習支援 (たいわウインタースクール)	数学 英語	5
17	1月4日～6日	柴田町 船岡公民館	自学自習支援 (冬期受験力アップ学習会)	数学 英語	3
18	1月5日、6日	大郷町立 大郷中学校	自学自習支援 (大郷町ウインタースクール)	数学 英語	5
19	1月13日～15日	エスパルスクエア	榴岡小学校と連携による「折り鶴プロジェクト」イベントでの運営補助、参加小学生とのオブジェ作成		17
20	2月16日	東北大学・片平 さくらホール	グローバルセミナー東北 (震災復興と生態適応) でのボランティア活動報告及びポスター発表		2
21	2月27日～3月2日	南三陸町立 志津川中学校	教員補助		1

## 6 3月 (春休み) の取り組み (予定を含む)

3月は、学生が休業期間となっており、遠方への支援ニーズに応える形で学生ボランティア派遣事業を実施 (予定) した。他大学の学生の支援を多く受けて実施している。また、小・中学校は授業中であるため、教員補助事業が多いことが特徴となっている。

**支援件数 (予定を含む) : 22 件 (2月29日～3月30日)**

支援ボランティア数 : 派遣人数 120 人

他大学からの支援 : 東北大学、東北学院大学、北海道教育大学、群馬大学、愛知教育大学、京都教育大学、奈良教育大学、滋賀大学、福岡教育大学、東京学芸大学、早稲田大学

支援内容 : 自学自習への支援・・・12 件

教員補助・・・・・・・・・・10 件

### 教育復興支援センター活動(事業)予定表(3月分)

整理番号	日程(予定)	実施場所	支援内容	派遣 実人数
			実施方法	
1	2月29日～3月22日	仙台市立 八本松小学校	教員補助	1
2	2月29日～3月23日	岩沼市立 玉浦小学校	教員補助	2
3	3月5日～9日	丸森町立 館矢間小学校	教員補助	2
4	3月5日～15日	丸森町立 丸森小学校	教員補助	13
5	3月5日～16日	松島町立 松島第一小学校	教員補助	23
6	3月5日～23日	七ヶ浜町立 七ヶ浜中学校	教員補助	3
7	3月8日～22日	仙台市立 蒲町小学校	教員補助	1
8	3月13日～22日	女川町立 女川第一中学校	教員補助	2
9	3月13日～23日	大崎市立 古川第四小学校	特別支援学級の補助	2
10	3月13日～30日	南三陸町立 志津川中学校	教員補助・課外活動の補助	31
11	3月26日～30日	巨理町立 荒浜中学校	自学自習支援(春休み勉強会)	4
12	3月27日～30日	丸森町立 丸館中学校	自学自習支援(春休み勉強会)	11
13	3月27日～30日	気仙沼市内小中学校 (10校)	「春休み学び教室」での学習支援	29

<教育復興支援コーディネーター報告書から(抜粋)>

支援校：南三陸町立志津川中学校 訪問日：3月13日 参加学生ボランティア：12名

到着後すぐさま校長先生、教頭先生から沢山のお話を戴いた。

その壮絶で、私たちの目には見えない大変なご苦労と深い悲しみ、苦しみが絶えることなく、付随するいろいろな重荷を背負って先生方と今日まで頑張ってきた様子は、胸の深いところを抉られた感じです。

その教職員の思いや真心はしっかりと子供たちの心に根ざし伝わっている。廊下を歩くたびに「こんにちは！こんにちは！」と、何度も、何度も声を掛けてくれました。「あいさつ」は、コミュニケーションのはじまりと言われるが、なかなか言おうと思いつきながらもできないところがあるものです。当たり前のことの大切さを、身をもって体験している子どもたち、「もう生きていかなければならない」と、自分に言いきかせて賢明に前を向く姿を垣間見た。

「宮城教育大学教育復興支援センターが窓口となって支援する宮城は勿論、全国の学生ボランティアのみなさんの支援をいつも有り難く待っています」と話す校長の熱い思いは教職員の願いとも言えます。

## 7 学生教育への効果

学生たちは、新聞やテレビ等を通じて、被災地の状況を把握していたが、実際に現場へ出掛け、その匂いや空気などを肌で感じたとき言葉を失った。

また、学生たちは子どもたちが「自分たちを受け入れてくれるだろうか」と不安を感じながら緊張した面持ちで教室への第一歩を踏み込んだ。ぎこちない雰囲気が幾分漂った後、子どもたちが人なつっこく笑顔を見せてくれ、学生たちはそっと胸を撫で下ろしたものである。信頼関係は、あっという間に深まり分からないことを尋ねる子どもたちに対して学生たちも真剣に答え、絆は確実なものとなった。子どもたちが課題と懸命に向き合っ、かつそれを解決した時の安堵した顔を見ると、その瞬間子どもたちに背負われた深い心の傷跡が塞がれていくように感じられた。

学生たちは、子どもたちがもがき苦しみながらもたくましく生きようとしている、その生きざまに胸を打たれ、己の生き方を振り返り次のステップにまい進するものである。このような貴重な体験が学生たち自身の成長の糧になったのは言うまでもないところである。

さらにこの学習支援ボランティアで出逢った学生たちが、同じ目標を持ち、子どもたちに寄り添う過程で互いの友情の和を広げられた事は、考えが及ばなかった効果である。

### トピック

#### \* 故郷復興プロジェクトへの出席(仙台市立七郷中学校)

平成 23 年 3 月 9 日に、仙台市立七郷中学校においては、東日本大震災から 1 年の節目にあたり、復興に向けたこれまでの取組を振り返るとともに感謝の気持ちを伝えることを目的に「故郷復興プロジェクト」を開催され、本学の学生ボランティアチームも出席いたしました。



七郷中支援チーム



## 8 参加大学や支援学校からのおたより等

宮城教育大学 副学長  
見上 一幸様

8月8日～10日の学習支援の件では、突然のことでしたが対応いただきましてありがとうございました。

開会に当たっては、田幡先生にもおいでいただき、学生さんも思いの外たくさん来ていただいて助かりました。

職員の出張復命書には、「支援の学生さんが一生懸命対応してくれている」という内容が多く見られました。

その1例としては、「1、2年生は夏季課題中心の学習、3年生は授業プリント・問題集・参考書または進研ゼミの復習などを行っている者が多い様子。学習支援の学生も熱心に教えてくれるようだ。」

という文面がありました。

本当にありがとうございました。来週(8/22)から学校は再開します。さっぱり休めませんが、少し涼しくなるらしいので体は楽になるかなと思っています。

先ほども結構大きい地震があり、安心できない日が続きますが、見上先生もお体を大切にしてください。

宮城県石巻好文館高等学校  
教頭 岡 邦広

2011 夏季強化学習会 (8/8～10) 感想と反省 (一部抜粋)

石巻好文館高等学校

いつもと違う環境で学習できたので、とても集中できたし、勉強がはかどった。また、大学生の人が来てくれたので、わからないことの他にも大学についてのことや勉強法など、様々なことを聞くことができ、すごく参考になった。今回大学生の方に聞いたことを生かし、今後も一生懸命受験勉強にとりくみたいと思う。(3年、女)

今年の学習会は、大学の先輩方が分からないところをていねいに教えてくれて、理解できていなかった部分も分かるようになりました。他にも問題を解くコツなどを教えてもらい、この学習会に参加して良かったと思いました。(3年、女)

宮城教育大学の大学生さんが教えてくれたり、勉強のコツや方法等をアドバイスして下さりとても充実した時間でした。(3年、女)

特に大学生の方がAO入試のことについて親身になって答えて下さったことがとても嬉しかったです。また、AO入試だけのことでなく、大学の様子や授業内容なども教えて下さったので、とても参考になりました。勉強面でも、悩んでいるとすぐに声をかけて下さり、きめ細かくていねいに教えて下さいました。

指導して下さいました先生方、大学生の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。(3年、女)

現役の大学生の方々にも来ていただき、たくさんの質問ができ、自分では解決できなかったことが、解決し、悩んでいる勉強法についてもアドバイスをいただけて、色々な方向から自分の今までのやりかたを見直すことができました。(3年、男)

大学生の方々や先生方も、毎日来て教えて下さり、とても充実したものとなりました。大学生の方々には私達の目線で勉強だけでなく、生活のことや社会のことを教えて頂きました。私が教えて頂いた1人の方は、英語を専攻している方でした。その方には英語の言語についてとても熱く語って頂きました。私も、英文科に入りたいので、とても興味が湧きました。英語というものがそんなに深く語れるものだとは分からなかったのも、英語は苦手だけど頑張ってもっと学んでみたいと思えました。

この3日間は、もちろん勉強も捗りましたが、現役の大学生に直接話を聞くことができるという点においても、充実した3日間でした。自分の時間を割いてでも私達に教えに来て下さった、大学生の方々に大変感謝しています。この3日間で身に付けた勉強のリズムを忘れないように受験に向けて頑張りたいと思います。(3年、女)

大学生の方に教えてもらうことは、歳が近いこともあるせいか質問しやすく、また丁寧に教えていただけるのでとても助かりました。現役生の大学での事や普段の生活、進路のことも相談したりと、よりリアルな大学生活を知ることができました。パンフレットだけでは知り得ない様な内容もあり今まで以上に興味がわきました。同時に、希望進路を達成させたいと強く思いました。他校よりも約1ヵ月遅れている分更に頑張ります。

初めての参加でしたが、自学ということもあり大変充実していました。大学生の方と話げできたこともプラスになり、参加して良かったです。(3年、女)

国公立大の大学生の皆さんにもわからないところや、疑問点などを的確に教えていただき、ありがたかったです。わからない所を教えてもらうだけでなく、勉強法や大学についての質問にも快く教えて下さって、より自分の進路達成の気持ちが強くなりました。

最後にたくさんの大学生の皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。(3年、女)

今回は勉強会に3日間参加して、大学生のみなさんがとても親切に教えていただいたので、勉強がとてもはかどりました。家で自分で勉強することに不安があったので、これを機に自学の時間を増やしていきます。また、集中して勉強できたので、この習慣をぜったいに確立させます。大学生のみなさんから大学の話をきいたとき、とても楽しそうだったので自分も頑張りたいと思います。(3年、女)

この夏季強化学習会では、大学生の先輩達と英語の単語の覚え方などを聞いてとても参考になりました。また、分かんない所も丁寧に教えてもらい、解決することができ宿題を終えることもできたので、良い学習会にすることができました。3日間家よりも良い環境の中で集中して勉強することができて良かったです。また大学生の先輩方といろいろ話をして参考になったことが多かったので来年また機会があれば参加したいなと思いました。(2年、女)

わからないところがあれば、先生や学生ボランティアの方に聞くこともできて、とてもよい環境でした。(2年、女)

大学生のみなさんにもおしえていただけたことはとても勉強になりました。感謝の気持ちで一杯です。明日からもがんばりたいと思います。(2年、女)

普段、関わりの少ない宮教大や東北大の人と接することができて、受験についてのアドバイスや実際の経験とかを聞いて、とても役に立ちました。また分からない所も、丁寧に教えてくれたのですごく分かりやすかったのも、この三日間で知識が増えた気がします！三日間、決まった人ではなく、何人が交替で来てくれたのも、いろんな人と接することができて良かったなと思いました。(3年、女)

受験を目の前にしてすごく焦っていたのですが、大学生の方に分からないことや勉強の仕方を具体的に教えてもらい、これから受験までの時間どのように勉強していこうかということが見えました。見えたので、今まで以上に頑張ろうと思えました。不安でいっぱいですが、志望大には絶対合格したいので、今回教わったことをいかして死ぬ気で勉強していこうと思います。(3年、女)

私は今回の夏季強化学習会で、苦手な数学を克服するのが課題でした。家で勉強してもダラダラしてしまいあっという間に時間が過ぎていったり、分からない問題につまったらやる気もなくなったりしてしまっていました。しかし、この3日間の中東北大や宮教の先輩方、好文の先生方

にたくさんの分からなかった問題をおしえてもらいました。分かるたびに達成感がありどんどん問題数をとくことができました。また、周りの環境が受験生の先輩、友達がたくさんいてみんなも頑張ってるから自分も頑張らなくちゃ！という気持ちになっていました。家で勉強していると1人なので自分だけ苦労しているのでは？とってしまうので今回この環境で勉強できて、もっと勉強しなければと思いました。(1年、女)

今回の夏季強化学習会で勉強がすごくはかどりました。夏休みの宿題も減りました。家でやろうと思っても集中力がきれ、こんな長時間勉強できないと思います。専修大ではエアコンもあって快適だったし、分からない問題があっても質問できる環境にあったので、長い時間でも集中して進めることができました。家では分からない問題はそのままにしがちですが、今回は大学生の方や先生方に教えてもらったり、友達と一緒に考えて答えを見つけたりできました。そうしていくうちに、問題を解くのがおもしろくなりました。

今回の夏季強化学習会で久しぶりにこんなに長い時間勉強しました。家庭でも今回のように集中して勉強できたら良いと思います。また、次回もこのような学習会があれば参加したいです。(1年、女)

快適な環境だったので勉強がはかどりました。大学生の皆さんの勉強法なども聞けて、有意義な3日間だったと思います。(3年、女)

場所を貸して頂いた専修大学の方々、教えて頂いた大学生の方々、ありがとうございました。(3年、女)

震災の影響により、例年より夏休み期間が少ないなか、宿題の量は多くどうしようかと不安でした。しかし、このような学習会があり、とても助かりました。先生方や大学生の方々がいるので、分からない所もすぐ解決できて良かったです。また、エアコンがきいている部屋なので、集中でき計画的にすすめることができました。もし、参加していなかったらこの暑期中、家でやり、勉強などに身が入らなかったと思います。この3日間で、分からない問題がなくなり、アドバイスももらえて、私にとっていい時間となりました。これからの勉強に、役立てていきたいと思います。残り少ない夏休み期間で、復習や暗記するものを頑張りたいと思います。来年の夏休みも、このような学習会を開いてほしいです。3日間ありがとうございました。(1年、女)

周りが勉強していると自分もやらなければいけないという気持ちになり、身が入りました。参加してよかったです。大学生の方も自分が専攻していない教科でも教えてくれて、すごく有り難かったです。(3年、女)

中でも大学生とのコミュニケーションがとてもよかったです。先輩方の受験でのエピソード、心がまえ、勉強の仕方など、普段学校では学べないようなことも学べました。勉強でもわからないところをととても丁寧に、わかりやすく教えてくれました。先輩方は積極的に話かけてくるので、とても接しやすかったです。(2年、男)

来年も参加しようかなと思いました。そう思うようになった理由が二つほどあります。(中略)学校の先生や大学生の方々が勉強を分かりやすく教えてくれたということです。忙しい中わざわざ来て勉強を教えてもらえるという経験はそんなにできないと思います。そして、とても丁寧に教えて下さるので助かりました。(2年、男)

今年は昨年よりも多くの大学生の方々に来て頂いて、学習の支援もして頂きました。また、学生時代の勉強法もお聞きすることができて参考になったので、今日から実践してみようと思います。(2年、男)

勉強で分からないところは、先生や大学生の方に教えてもらいながら解決できるし、大学という施設でできたので進路のことを考えて勉強できるいい機会だったと思います。(2年、女)

快適な環境の元で勉強だけができるのは贅沢な時間(2年、女)



謹啓

朝夕の爽やかな風に秋の訪れを感じられる頃となりましたが、貴職にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この夏季休業中は、大変厚かましいお願いにもかかわらず快くお引き受けいただき、学習支援ボランティアとして貴学より多数の学生の皆様に派遣いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

おかげさまで、8月2日から18日までの10日間にわたり、延べ92名の学生の皆様に優しくていねいな学習支援を行っていただき、生徒の学習の確認・定着に大いに効果を高めることができました。

このたびご支援いただきました学生の皆様には、交通費はもとより何一つ御礼を差し上げることもできず、生徒共々ただただ感謝の言葉を申し上げるばかりではございますが、本校職員及び生徒の今後の奮闘・頑張りを以ちまして御礼に代えさせていただければ幸いです。誠にありがとうございました。

早いもので、大震災からまもなく6ヵ月目を迎えようとしており、生徒たちの生活にもだいぶ落ち着きが見られるようになりましたが、まだまだ不自由な生活を送らざるを得ない状況も続いております。貴学並びに学生の皆様のご発展・ご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも何卒温かなご支援・お励ましを賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら御礼のご挨拶とさせていただきます。

敬具

平成23年9月5日

宮城教育大学

学長 高橋 孝助様

名取市立関上中学校

校長 高橋 澄夫

平成 23 年 8 月 1 日

宮城教育大学  
キャリアサポートセンターの皆様

仙台市立七郷中学校  
校長 佐藤 一拡

### 第 3 学年学習相談の御礼

炎暑の候、貴職におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

常日頃から本校の教育活動に多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、このたび本校第 3 学年における夏季休業中の学習相談に多くの学生を派遣していただき、誠にありがとうございました。お陰様で今回の学習相談は、生徒たちにとって、各教科の復習を充実させる絶好の機会となりました。今後の受験勉強や進路を考えていく上でとても参考になったことと思います。本校といたしましても、皆様の献身的な支援に負けないよう、教育活動をより充実させていく所存でございます。

末筆になりましたが、職員および学生の皆様の生徒たちへのきめ細やかな心遣いに感謝するとともに、ご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げ、甚だ略儀ではございますが、書中をもちまして御礼の挨拶とさせていただきます。

平成 23 年 8 月 1 日

宮城教育大学  
学習相談においでいただいた学生の皆様

仙台市立七郷中学校  
校長 佐藤 一拡

### 第 3 学年学習相談の御礼

炎暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

常日頃から本校の教育活動に多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、このたびはお忙しい中、本校第 3 学年における夏季休業中の学習相談においでいただき、誠にありがとうございました。お陰様で、参加して生徒たちは熱心に各教科の復習に取り組むとともに、日頃からの学習の積み重ねの大切さをあらためて実感することができた様子です。

末筆になりましたが、学生の皆様の生徒たちへの熱意あるご指導に感謝するとともに、ご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げ、書中をもちまして御礼の挨拶とさせていただきます。

宮城教育大学

学長 高橋 孝助 殿  
副学長 阿部 芳吉 殿

朝夕涼しくなりましたが、津波の塩害で枯れてしまったのかと思っていた校庭の木々に、葉が少しずつ生えてきて驚いています。震災から半年、心が落ち着いたのかと思ったら、鎮魂行事や回想的ニュースを見るたびにまだまだ悲しみを思い浮かべてしまい、癒されていないのかなと考えてしまいます。

さて、9月の学習支援ボランティアには、宮教大生や他大学生の学習支援をいただき、大変有り難うございました。そして、期間中の9月17日土曜日に玉浦小学校大運動会を開催し、学生3名にご協力をいただき盛会に無事終了することができました。

また、夏休み中も「サンサンサマースクール」という名称で仮設住宅の子どもを対象に3日間、学習会の指導をしていただきました。高橋孝助学長様はじめ学習ボランティアをとりまとめたいただいた（聞くとところによるとボランティア学生を勧誘していらっしやったという）阿部芳吉副学長様や学生の皆様には心より「御礼」申し上げます。

忘れられない3月11日金曜日午後2時46分は、いろいろな方の人生を狂わしたのかなと思います。玉浦小では、避難住民600人がいて、津波が校庭を襲い、300台の車は水没し、校舎一階も体育館も水浸しになりました。その夜は、雪は降る雷は鳴る雨も降る寒い夜で、次の日の昼過ぎまで津波に取り囲まれ、食べ物もない毛布もない寒い一夜を過ごしました。

避難所解除後は、学校の復旧に全力で取り組みました。自慢できることは、床上浸水でも開校している学校は県南の方では玉浦小くらいです。このことは、保護者や岩沼市住民の絶大なる支えがあってできたことと感謝しています。そのなかで、ボランティア活動や支援物質の提供、義援金の贈呈など、感謝しきれないことが多くありました。日本各地や海外からも支援をいただきました。

感謝感謝の気持ちでいっぱいです。

短い夏もいろいろあり、2学期を迎えましたが、最大の課題は1学期にできなかった運動会開催でした。例年なら、地区民運動会での運動会で、地区の方々がいろいろと運営するのですが、長い間学校単独での運動会はやらなかったこともあり久しぶりの運営がとても心配でした。宮教大の学生さんや他の学生さんに朝早くから手伝っていただき、スムーズに運営ができました。親子で参加して保護者のみならず地区の方々にも喜んでいただきましたことは一番の成果でした。

9月中の学習支援では宮教大生に決められた各教室に入ってもらい、給食も一緒に食べながら過ごしていただきました。子どもたちは若い情熱のある先生と勉強して忘れられない学校生活になりました。

過日、貴大学から贈られてきた広報誌「あおば わかば」（震災特集号）を読みながら、学長と学生との座談会“教育の復興に向かって”や“宮城教育大学平成23年度新入学生へ”のページで大変感銘を受けました。教員のあるべき姿が話され、宮教大の教育が未来においても学生に確かな精神を培う学府としての存在価値を感じました。私も卒業生の一人として誇らしく思いました。私は退職を間近にして、この震災が私たちに与えた意味を、学校存在の意義を、教育の価値を、教員の役割とは、などなど震災を機会に問い直すことが多くなり、被災地の中で学校再開を決めたこともあり、広報誌「あおば わかば」の内容に大変感動を受けた次第です。

不条理な震災ではありますが、ボランティアされた学生はとても優秀な教員になることと思えました。また、ボランティアを派遣された宮教大学に教育の姿勢を感じ取りました。ありがとうございました。

高橋学長様初め、阿部副学長様、学生の皆様に深く感謝を申し上げ、お礼のあいさつとします。そして、貴大学の益々の発展と皆様のご健康をご祈念申し上げます。

なお、ご協力いただいた学生名は以下の通りです。（敬称省略）

黒澤真理子	齋藤 葵	松崎穂奈美	吉田航也
土谷 真央	高橋優里香	伊東真由子（院生）	

2011.10.5

宮城県岩沼市立玉浦小学校長 大沼 吉朗



和教総号外  
平成23年8月11日

宮城教育大学  
副学長 阿部 芳吉殿

大和町教育委員会  
教育長 堀籠 美子

たいわサマースクールの実施に伴うボランティアの派遣について（お礼）

残暑の候、貴殿におかれましては、日ごろより、本町の教育活動に御理解・御協力をいただき誠にありがとうございます。

特に今回8月1日（月）から5日（金）までの夏季休業中5日間にわたって行われました、「たいわサマースクール」におきましては、貴大学学生の御支援・御協力をいただきました。貴大学学生の皆さんは、期間中、毎日熱心に指導していただき、参加した生徒はもとより、それぞれの学校の校長先生始め先生方や保護者からも感謝の声が教育委員会に寄せられました。活動の様子につきましては、大崎タイムスに掲載されました記事を同封いたしますので、御覧いただきますようお願いいたします。

また、生徒のアンケートによりますと、貴大学学生のおかげで十分な成果を上げることができました。深く感謝申し上げます。

今後とも本町の教育活動に御理解・御協力をいただきますようお願い申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。

担当 教育総務課 参事 鈴木 一史

大阪教育大学 広報誌「天遊」から

被災地ボランティア学生へ  
理事 木立 英行

座談会（1～5面掲載）では学習支援活動について多く語られていますが、同行したわたしはほとんど初対面の皆さんが他大学生との交流も図り、一週間の中に良いとはいえない環境の中で共同生活を作り上げたこと、皆さんの力量を感じました。わたしが同行した気仙沼に派遣された諸君は、災害で失われた生徒の就職先を開拓するために極めて多忙となった先生たちの手助けを乞われたのですが、他も学校も同じようなものであり、教師をめざす諸君は考えるところがあったと思います。教育以外の面で学校教師に期待される役割を改めて実感しました。

復興の兆し、著しい被災地で見た気力、知力、体力を振り絞って再び立ち上がろうとする人々の姿をわたしはこれからも忘れないと思います。皆さんも将来、挫けそうになったとき、きっと同じ姿が思い浮かぶのではないのでしょうか。わたしにとっても様々な学ぶことの多い一週間でした。31名の皆さん、ご苦勞様でした。ひと回り大きくなった皆さんの今後の努力と活躍を期待しています。

（現地での学生指導等担当）

宮城教育大学  
研究・連携課課長  
芳賀 茂様

教育復興支援ボランティアに本学学生ともどもお邪魔した愛知教育大学法人運営部の中原と申します。その節は大変お世話になりました。皆様のお力によりスムーズに活動することができ、お地元の小中学生の学習のお手伝いできたこととすれば、学生にとっても、大変喜ばしいことと存じます。

早いもので、宮城教育大学、気仙沼市を訪問してからすでに半月が経とうとしています。私が同行した学生たちは皆、元気にそれぞれの生活に戻りました。ボランティア活動の傍ら、気仙沼市内の惨状を見聞きするとともに、南三陸町、陸前高田市、名取市などの被災地を見る機会を持ち、気仙沼の小学校教諭から、震災当日の様子を直接聞くこともできました。6日間という短期間ではありましたが、学生は今回の震災の規模の大きさ、被害の根深さ、復興までの長い道のりなどを実感するとともに、将来、教育現場に立った時、その重みと意味を噛みしめながら子どもたちに接することができるのではないかと確信いたしました。

ご準備をいただき、さまざまな形で世話までしていただきました皆様には感謝するのみです。お礼の手紙が遅れ、すみませんでした。職員の皆様、一緒に行動して下さった学生、院生の方々にも、くれぐれもよろしくお伝えください。

まだ、暑く、長い支援、協力の日々が続くことと思います。ご健康に留意され、ご活躍くださるよう、心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも縁あって本学生が活動に参加させていただく折には、何卒、よろしく願い申し上げます。

なお、8月18日夜、ミヤギテレビ（だと思うのですが）のニュースで津谷中学のボランティア活動が取り上げられておりました。もし、DVDなどを入手することが可能でしたら、方法をお知らせ願えれば幸甚です。

今回、本学学生が中日新聞（東京新聞）の地元記者の取材を受け、彼らなりに得たことを話しておりました。ご参考に送付させていただきます。ご査収ください。

Ⅳ 学生ボランティア派遣事業



宮城教育大学 高橋学長先生

5月11日付けの「私信」を拝受いたしました。震災対策、教育復興対策にご多忙の中、詳細なご報告を含めたお手紙をありがとうございました。

本学では、3月12日に学生が募金活動を開始し、学内だけでなく街頭募金を含めて自発的に行ってくれました。教職員も、学長、理事、副学長が呼びかけ人となって、募金をいたしました。

支援物資については、当初は衣類と日用品が中心でしたが、文具中心に変更して、都合3回送付いたしました。「焼け石に水」程度の支援にしかならないとおもいますが、音楽の教員からはピアノ支援の申し出もあり、このピアノを含め、近々にダンボール約9箱分の物資を送り、支援物資送付は一区切りにしたいと考えています。

支援物資の送付に関しては、見上先生の他、東北大学、岩手大学、また、本学附属中学校を通して気仙沼市教育委員会にもお世話になりました。緊急対策に追われてご多忙の中、配慮していただいたことに感謝しています。

本学の学生たちにも、ボランティア希望者が多数います。なかには、子どもの時に阪神大震災で被災したという教職大学院生が、「1年間休学してでも、現地に行きたい。」という申し出もありましたが、「この状況では個人で現地に行ってもかえってご迷惑かもしれないから」と説得した、ということも聞いています。

大学としては、夏期休業期間などに学生が教育支援のボランティア活動をするを想定して、希望する学生は本学ボランティア支援センターに登録するように指導しています。5月11日には、ボランティア希望者を対象に研修会を実施しました。臨床心理士の資格を持つ教員による「子どものこころのケアと理解」と私が原子核工学出身でチェルノブイリ調査などの経験もありますので、「福島第一原発事故と放射線」という話をしました。教職員を含めて80人ほどが参加しましたが、「子どものこころのケアと理解」に参加した40人ほどが積極的なボランティア希望者だと思われまます。

学生たちが、「お役に立ちたい」という気持ちだけではなく、将来教員になる者としての心構えと予備知識をもって現地に行くことができるように研修を継続する予定です。

昨日、事務を通じて貴学教育復興支援センターの活動計画を知りました。

補習授業等教育支援の計画がありましたら、どのような協力ができるかをお知らせいただければ幸いです。心準備ができた学生達を派遣することができると考えています。その他にもお手伝いできることがあれば、お申し出ください。

先日、教大協常務理事会・理事会では、秋田大、茨城大、千葉大から震災関連の報告があり、大変な実態を（頭では）理解いたしました。

秋田大学の笠原先生が、日頃の避難訓練がほとんど役に立たなかった、という主旨の発言をなさいました。耳に痛いお話であり、本学でも今年度は、平日の授業時間帯に全学一斉に災害時避難訓練を実施しようと考えました。

奈良県教育委員会にも、被災地から奈良県内の学校に在籍してきた子どもたちに対する支援が必要であれば協力する旨の申し出も行っております。対象となる子ども数が少ない（恐らく50人以下）ためか、現在のところ、特段の要請はありませんが、心づもりだけはできています。

ユネスコスクールの活動に関しては、はじめてのことであり、なかなか勘所がつかめません。先日、文科省に行った折に、国際統括官付に行きましたが、浅井室長が海外出張中で埒がきませんでした。当面は、UnivNetの会議と秋に予定されているユネスコスクール全国大会に向けての準備かと考えています。

以上、話があちこちに飛んでしまいましたが、最後に、高橋学長さんをはじめ、貴学教職員の皆さんが健康に留意されて教育復興支援に当たられますよう、また、大学の運営・教育が早期に日常に戻りますことを祈念いたします。

5月20日  
奈良教育大学 学長 長友恒人



愛知教育大学 広報誌から

## 震災ボランティア結団式(8/5)



夏季休業中に東日本大震災の被災地、宮城県への教育復興支援ボランティアを派遣するのを前に、「ボランティア結団式」が8月5日（金）午後4時40分から、本部棟3階第五会議室で行われた。

本学では震災直後から、宮城教育大学、福島大学への緊急物資の支援を実施し、学生のボランティア派遣の準備を進めてきた。宮城教育大が受け皿になり、ボランティア活動の調整が整ったことから、第一陣が7日（月）～13日（土）に現地入り、その後、約1週

間単位で派遣が行われることが計画されている。

結団式には、ボランティアの約10人の学生と、学生を引率する教職員らが参加。松田正久学長が冒頭あいさつに立ち「私も6月に宮城教育大でのシンポジウムのため現地を訪れましたが、災害は凄まじいものでした。本学在学生の保護者で被災地の小学校教員の方からの手紙などから、先生の力はすごいと感じていました。ボランティアとして現地の小中学生と交流する中で、君たちの人生に得るものがきっとあるはず。何より健康に気をつけて、現地の子どもたちを元気にしてきてください」と激励した。山本良夫学生支援部長からは、ボランティアの手引書と生協が提供したユニフォームのポロシャツが配られ、手引書の説明がされた。



続く自己紹介では、ボランティアに応募した理由や抱負を一人ずつ発表。「相手の目を見て活動するチャンス、自分のできることを精一杯やりたい」「教師になったとき、この経験を生かしたい。いろんなことを学んできたい」「心理学を学んでいますが、募金活動では“心の傷”をいやすことはできない。被災した人の心の傷を少しでも軽くできたら」とそれぞれが思いを語った。

ボランティア終了後は活動の様様を大学に報告し、いずれ記録を作成する予定。参加者には大学がボランティア証明書を発行し、報告会を開いてボランティアに参加しなかった学生にも活動の体験を伝えることが計画されている。

第1陣第2期派遣(8/8-12)

東日本大震災に係る教育復興支援ボランティアとして、本学にとっては第1陣となる第2期派遣チームが、宮城県立志津川高等学校（宮城県南三陸町）での8月8日（月）から12日（金）の5日間にわたる夏季休業中における学習支援を終了して、本学に戻ってきた。

第2期派遣チームには、本学からは井上佳菜（初等・理科，1年）さん、青木遥花（初等・理科，1年）さん、林茉里（初等・音楽，2年）さん、水谷香菜（初等・音楽，2年）さん、富田大樹（初等・数，3年）さん、海平将旭（初等・理科，3年）さん、緒方



佑香（初等・国際文化，4年）さんの7人が参加した。10日（水）からは、宮城教育大学から羽生静香（特別支援・3年）さんも参加し、学生8人による学習支援となった。

7日（日）21時15分に名鉄バスセンターに集合したメンバー達は、21時30分発の仙台行き高速バスに乗り込み、言葉少なく目的地を目指した。9時間40分の道のりを経て翌8日（月）7時10分に仙台に到着し、直ちに宮城教育大学が用意してくれていたマイクロバスに乗り換え、今回の世話人となった阿部理事と桑田さんとともに、津波による大きな被害を受けた宮城県南三陸町にある宮城県立志津川高等学校に約2時間をかけて移動した。

8日9時45分に志津川高校に到着し、日下校長及び佐藤教頭を前に、自己紹介を行った後、学習支援を始めた。活動場所は、校舎2階にある学習室で、自学自習のために通学してきた生徒から質問されたところを教えるという形態で、毎日朝10時から昼食を挟んで15時まで行われた。12日（金）までの5日間は、毎日10名程度の生徒が固定で参加し、学生はほぼマンツーマンで教える状態であった。



また、10日（水）には、佐藤教頭の配慮により、12時50分から13時30分の間で志高避難所での昼食体験（おにぎり、マフィン、飲み物が各1個）と15時から16時の間で避難所運営代表者山内氏、避難所自治会代表佐々木氏などとの交流会があり、被災当日の状況や避難所を運営する上での苦労話など体験談の聞き取りが行われた。



最終日の12日（金）には、活動終了後にお別れ会があり、生徒からのお礼の言葉と学生からの感想が述べられた。泣きながら話をする場面もあり、それぞれの学生にとって、印象深い経験になったものと思う。最後に、生徒も含めた全員で記念写真を撮影し、帰路に着いた。仙台までのマイクロバス車内では、1週間の共同生活により、来る時とは雰囲気異なり、さながら修学旅行のノリであった。



活動期間中の宿泊場所は、「南三陸ホテル観洋」で、復旧工事関係者やボランティア活動の宿泊利用とともに、被災者の避難所にもなっていて、食事は一般の宿泊者とは別に支援物資を中心としたメニューでセルフサービスだったが、風呂は宮城県内では珍しい太平洋沿岸に湧き出た温泉が自慢のホテルだったため、朝日を見ながらの朝風呂は最高で、疲れた体を癒やしてくれた。

最後に、今回のボランティア活動のコーディネートを行っていただいた宮城教育大学の関係者に感謝するとともに、本学学生には今後も継続的なボランティア活動への参加を伝えたい。

（学生支援部長 山本 良夫）





# VII

# その他の事業

## 1 子供対象・参加イベント事業

### 平成23年度子ども対象イベント実施状況

	日程	実施場所	実施内容	備考
1	8月20日	石巻市立 飯野川中学校	教育夏祭り 2011IN 東北への支援 (ボランティア学生の派遣)	他団体主催 への協力
2	8月17日 ～8月20日	国立花山 青年自然の家	気仙沼市被災児童のための「KAWTABI サ マースクール」への支援 (ボランティア学 生の派遣)	他団体主催 への協力
3	11月5日	岩沼市 岩沼西小学校	岩沼市市制40周年記念事業 「理科大好きフェスティバル」のブース活 動の補助 (村松教授もブース参加)	他団体主催 への協力
4	11月5日	気仙沼市立 大島小学校	学校支援プログラム (技術教育講座) 大島小学校児童を対象とした「LEDラン タン工作教室」	
5	11月19日	仙台演劇工房 10-BOX	復興への子どもの時間 ～ヤギと癒しと～ ふれあいコーナーの実施補助	他団体主催 への協力
6	1月13日～15日	エスパル スクエア	榴岡小学校と連携による「折り鶴プロジェ クト」イベントでの運営補助、参加小学生 とのオブジェ作成	「子ども対象 イベント」 関係
7	2月18日	気仙沼市立 気仙沼中学校	気仙沼市立小学校児童を対象とした「図書 館実験工作教室」(講師：内山准教授)	
8	3月3日	気仙沼 中央公民館	気仙沼・本吉地区の小・中・高校生、一般 を対象とした「2011 ESDサイエンス・ワー クショップ」(講師：玉木教授)	
9	3月17日	イオン石巻 ショッピング センター	街角科学体験コーナー (提案：山形県、運 営：山形大学) へのブース出展 (水谷教授) 「LEDのミニインテリアランタン工作教室」	他団体主催 への協力

Ⅶ その他の事業



## 実験工作教室 理科を楽しむ！ — 熱ってなんだろう？ —

日 時／平成 24 年 2 月 18 日（土）10：00～12：00

場 所／気仙沼市立気仙沼中学校

対 象／気仙沼市内小学生（1、2 年生は保護者同伴）

講 師／宮城教育大学 内山 哲治 准教授

参加者／40 名

補助員／2 名（院生）

\*運動をしたら体が温かくなって汗をかきます。雪を素手でさわったら冷たくてジンジンしてきます。これは体に熱が蓄えられたり、体から熱がうばわれたりするために起こります。では、熱とは何でしょうか？ 体を使って、熱い世界や冷たい世界を体験して、一緒に考えていきましょう。

## サイエンスワークショップIN気仙沼 「放射能・放射線ってなに？」

日 時／平成 24 年 3 月 3 日（土）10：00～12：00

場 所／気仙沼市立階上中学校

対 象／気仙沼市内小・中・高等学校児童・生徒及び一般

講 師／宮城教育大学 玉木 洋一 教授

参加者／65 名

\*東日本大震災に伴う原発事故が起こってもう 1 年になろうとしています。この間、放射能・放射線についての理解が十分でないことによる不安、心配や誤解など混乱がいろいろ起こっています。放射能汚染を「正しく恐れる」ためには一人一人の放射能・放射線に対する知識と理解がどうしても必要です。今日の講演がこれから放射線と長く付き合っていかなければならない若い人たちのための一助となればと思っています。

演 習：半減期と自然現象の偶然性を実感する。

演示実験：1) 空気中にある環境放射能を体験しよう。

2) 環境放射線と環境放射能

3) 放射線の性質を知ろう





## 2 心のケア支援事業

	会場	期日	氏名	内容
1	仙台市立七北田小学校	5月26日	佐藤 静 教授	震災に伴う心のケア講演会 講演題目：震災に伴う心のケア講演会 対象及び参加者：保護者等 90名 内容：震災時のストレス反応等の理解、児童生徒に対する心の支援の方法等について講演した。
2	宮城県教育研修センター (ホテル白萩)	7月4日	関口 博久 教授	平成23年度教育相談コーディネーター研修会 テーマ「教師のメンタルヘルス」
3	宮城県教育研修センター (登米市中田生涯学習センター)	7月13日		
4	ケア・宮城&プラン・ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立津谷中学校)	6月28日	野口 和人 教授	子どもの心を支援する教師のための心ケア研修会 演題：震災後の子ども支援 ～今 そしてこれから～ 対象：気仙沼市教員(幼～高) 30名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
5	ケア・宮城&プラン・ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立松岩小学校)	6月29日		研修会名、演題：同上 対象：松岩小学校教員および保護者 130名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
6	ケア・宮城&プラン・ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立新月中学校)	7月9日		研修会名、演題：同上 対象：新月中学校教員および保護者 70名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
7	ケア・宮城&プラン・ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立大谷小学校)	7月15日		子どもの心を支援する教師のための心ケア研修会 演題：震災後の子ども支援 ～今 そしてこれから～ 対象：大谷小学校教員および保護者 50名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
8	仙台市立寺岡小学校 (共：寺岡市民センター) 寺岡市民センター	7月6日	佐藤 静 教授	親と子のカウンセリング 講演題目：親と子のカウンセリングー震災時の子どもの心のケアについて 対象及び参加者：保護者・市民 35名 内容：震災時のストレス反応等の理解、児童生徒に対する心の支援の方法等について講演した。
9	仙台市教育局仙台市教育センター	7月8日	佐藤 静 教授	さわやか相談員等研修 講演題目：被災した児童生徒に対する心のケアを踏まえたかかわり方 参加者：仙台市立小・中学校配置のさわやか相談員等 61名 内容：被災した児童生徒の心理や心の支援方法について、スクールカウンセリングの考え方を中心に講演した。

	会場	期日	氏名	内容
10	仙台市立七北田小学校	7月25日	佐藤 静 教授	震災に伴う心のケア講演会 講演題目：震災に伴う心のケア 対象・参加者：七北田小学校教職員・学校保健委員 40名 内容：被災した児童生徒の心理や心の支援方法について、学校保健及びスクールカウンセリングの考え方を中心に講演した。
11	仙台市教育委員会	7月28日 9月8日	佐藤 静 教授	震災に伴う児童生徒の心のケアの推進に関する検討と協議
12	仙台市教育委員会	7月28日	野口 和人 教授	震災に伴う児童生徒の心のケアの推進に関する検討と協議
13	気仙沼市民健康管理センター	① 10月31日 ② 12月22日	佐藤 静 教授	災害時訪問スタッフ研修会 対象者：主に訪問等被災者支援に関わる職員（保健福祉業務の職員、友愛訪問員、居宅介護支援事業所職員、社協ボランティア・生活相談員等） 内容：①講話「被災された方々の心理と対応について～聴くことの大切さ～」 ②グループワーク「訪問活動を通して感じたこと」 まとめ「今後のこころのケア活動」
14	宮城県サポートセンター 支援事務所 (気仙沼市立本吉公民館)	12月5日	関口 博久 教授	宮城県被災者支援従事者研修 講座名：子ども・家族への支援 定員：各会場 100名 内容：環境が変わることで子どもたちが犠牲とならないよう、親と子ども両方への支援を行うために、子ども社会の現状を学び、予防策や、関係機関とその役割を知る。傾聴トレーニングでは、子どもの話を聞くという行為（ロールプレイ）を通して、被災者など弱い立場の人に寄り添った話し方・聞き方を学ぶ。
15	宮城県サポートセンター 支援事務所 (宮城県石巻合同庁舎)	12月15日		
16	宮城県サポートセンター 支援事務所 (亘理町中央公民館)	12月16日		
17	宮城県教育委員会 (気仙沼市役所 本吉総合支所はまなすホール)	12月6日	宮前 理 教授	平成23年度防災教育等推進者緊急研修会 対象及び参加者：小・中・高等学校及び特別支援学校の教員 約100名 内容：災害を経験した子どもたちの心の理解とケア（心の傷の見立てと対応）
18	宮城県教育委員会 (仙南芸術文化センター)	1月12日		平成23年度防災教育等推進者緊急研修会 対象及び参加者：小・中・高等学校及び特別支援学校の教員 約150名 内容：災害を経験した子どもたちの心の理解とケア（心の傷の見立てと対応）
19	宮城県教育研修センター (大和町まほろばホール)	12月8日	佐藤 静 教授	平成23年度防災教育等推進者緊急研修会 対象及び参加者：小・中・高等学校及び特別支援学校の教員 約450名 内容：災害を経験した子どもたちの心の理解とケア（心の傷の見立てと対応）
20	宮城県教育委員会 (宮城県庁 講堂)	2月24日	佐藤 静 教授	平成23年度小・中・高等学校初任者研修（心のケア・防災教育研修） 対象及び参加者：新規採用の小・中・高等学校及び特別支援学校教員 298名 内容：「震災と子どもたちの心の支援」

### 3 こころざし・・・キャリア教育事業

#### 学校・地域連携研究シンポジウムの開催

**学校・地域連携研究シンポジウム**  
**「夢と志をもつ子どもたちを育むために」**  
 第1回 復興に向けて！踏み出そう、学校と地域で！  
 日時 2012年2月11日(土) 13:00～  
 会場 TKP仙台カンファレンスセンター  
 仙台市青葉区花京院1丁目2-3 ソララガーデン 4階

**趣旨**  
 東日本大震災により、子どもの生活環境や学習環境が大きく変化し、それぞれ学校では、教育復興に向けて全力で取り組まれています。  
 こうした状況を踏まえ、学校と地域が連携して子どもの育成に取り組むための、地域協働型学校マネジメントのシンポジウムを企画いたしました。  
 是非、ご参加くださいますようお願いいたします。

**スケジュール**

- ① 開会に際して (13:00～13:30)  
 宮城教育大学 宇原 高穂 孝助  
 「愛と希望の復興」  
 岩沼市長 井口 純明 氏
- ② 事例報告 (13:40～14:40)  
 「地域共生科の設置」  
 仙台市立七北田小学校 研究主任 飯元 賢高 氏  
 「9年間を見通したキャリア教育の推進」  
 登米市立豊里小・中学校 研究主任 岩淵 公一 氏
- ③ 研究報告 (14:50～15:50)  
 「一小一中型学校区における学校と地域をつなぐ協働づくり」  
 宮城教育大学 初等教育学部 清田 愛 氏  
 「非都市部のキャリア教育」  
 宮城教育大学 初等教育学部 菅原 洋一 氏
- ④ パネルディスカッション (16:00～17:00)  
 岩淵 公一 氏、菅原 洋一 氏、飯元 賢高 氏、岩淵 公一 氏

主催：国立大学法人 宮城教育大学  
 協賛：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

2月11日(土) 宮城教育大学教職大学院及び教育復興支援センターが中心となり、学校・地域連携推進研究シンポジウム「夢と志をもつ子どもたちを育むために」第1回 復興に向けて！踏み出そう、学校と地域で！を開催した。

趣旨は、東日本大震災により、子どもの生活環境や学習環境が大きく変化していることから、学校と地域が連携して子どもの育成に取り組む地域協働型学校マネジメントに関する課題や押さえるべき点等について、情報の共有化を図ることです。

参加人数は120名で、宮城県内の各教育委員会、学校等の教育関係者にご参加いただきました。シンポジウムでは、震災後、いち早く復興計画をつくり復興事業を実施している岩沼市井口市長による基調講演、事例報告

として、仙台市立七北田小学校の地域共生科の設置の取組、登米市立豊里小・中学校の9年間を見通したキャリア教育の推進の取組、大学院生の研究報告2件、パネルディスカッションが行われました。

最後に、震災を経験し、命の大切さ、地域の大切さ学んだ中で、子どもたちに接していくための新しい授業づくりが必要であること。また、そのためには、大学と教育委員会、学校が連携して新しい教材づくりを行う必要があるとの確認がなされた。





## 4 特別支援教育等関係事業

### ① 不登校支援教育フォーラム — 不登校支援と震災後の心の支援 —



仙台市教育委員会・仙台市不登校支援ネットワークとの協働で、平成23年10月29日(土)に、青葉区中央市民センターにおいて、公開研究会「不登校支援と震災後の心の支援」を開催した。

3月11日に発生した東日本大震災による災害は、私たちの心にも大きな傷跡を残し、日常生活が少しずつ戻りつつある現在、学校における児童生徒に対する心の支援(心のケア)についても、通常の生徒指導や教育相談の取組を基盤とした不登校支援と重なる学校適応支援の観点から、震災後の心の支援を考えてゆく必要がある。

この公開研究会では、甚大な被害を受けた仙台市内の小学校・中学校の関係者や、不登校児童生徒に対する支援活動を行っている民間の支援者を招いて、学校の被災状況や復旧の取組と震災後の児童生徒への支援の取組等について紹介してもらいながら、パ

ネルディスカッションによる意見交換を行った。さらに宮城教育大学・特別支援教育総合研究センターの佐藤静教授による「震災と心の学校生活支援」の講話があり、教育関係者や学生、市民等、全体で100名を超す参加者があり、震災後の心の支援に関する理解を深めることができた取組となった。



### ② 特別支援教育フォーラム



平成24年3月4日に「特別支援教育フォーラム」を開催しました。このフォーラムは特別支援教育の諸課題をめぐり、今年度は、東日本大震災から1年が経過するのを前に、「東日本大震災」の経験から「特別支援教育」を考える」をテーマとして開催した。

京都教育大学教授の郷間英世氏から阪神・淡路大震災時の事例紹介、国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員の西牧謙吾氏から全国の特別支援学校の被災状況について、本学附属特別支援学校副校長(宮城県特別支援教育研究会)





東日本大震災

の今野和則氏から宮城県下の支援学校の被災状況とそれへの対応について、宮城県立石巻支援学校校長の櫻田博氏から被災地の支援学校の状況とそこから見えた課題について、それぞれ報告いただいた後、本学特別支援教育総合研究センターの関口博久センター長、佐藤静教授を交えて討論を行った。

約70名の現職教員をはじめとした関係者が参加し、質疑応答などでは活発な意見交換が行われるなど、示唆に富む有意義なものとなった。

### ③特別支援教育支援員講習 ー災害と特別支援教育ー

発達障害を含め様々な障害のある幼児及び児童生徒の理解と支援に関する最新事項の講習を通じ、特別な支援を要する幼児及び児童生徒に対し、担当教諭と協力して必要な支援を行う者の資質向上を図るための講習を実施した。

#### 特別支援教育支援員講習 「災害と特別支援教育」

日 時／平成23年11月27日（日）及び  
平成24年2月19日（日）

場 所／気仙沼市立気仙沼中学校及び新月中学校

対 象／気仙沼市内特別支援教育支援員

講 師／宮城教育大学 特別支援教育総合研究センター及び特別支援教育講座所属教員（関口教授、猪平教授、菅井教授、野口教授）

参加者／40名





# VIII 今後の課題

震災直後からの学生の自発的ボランティア活動から始まり、前述のセンターの取組を進めていく中で、様々な課題も見えてきている。

- ①支援プログラムの最適化（研究開発部門の早期立ち上げ）
- ②未来への伝承（取組を活字として残していく）
- ③学生派遣の環境整備（大学全体の共通理解・ボランティア週間等）
- ④運営体制の強化（コーディネーターや事務部門の強化等）
- ⑤事前・事後研修の充実（指導教材の作成等）
- ⑥定型的な支援体制の構築（支援期間の設定や支援シーズの集約等）

これは、今後の課題の一端であるが、各教育委員会や校長会等との緊密な連携のもと、学校現場での評価と検証を行いながら、よりの確な活動を構築することが教育復興を支援する本学の最も重要な責務になると考えている。

また、教員養成教育への防災教育や危機管理教育等の取り入れや地域の人材育成への対応等も早急な課題である。





踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から1年を経て～

東日本大震災

# IX

# 南東北3大学の連携

東北の地方国立大学は今、何をすべきか、南東北3大学(福島大学、山形大学及び宮城教育大学)の学長が連名で、平成23年12月15日に記者会見を行い、東日本大震災からの復興のため、南東北の3大学が今後何を行っていくか、4つの決意を表明しました。

①授業料減免等の財政支援を行い、国に対してもこれまで以上の要請を行うこと、②復興のため立ち上げた新たな組織を有効に機能させていくこと、③「災害復興学・災害復興教育」の分野に挑戦すること、④復興に向けて地方自治体や高校等と協力していくことを掲げ、特に、「教育復興学」については、災害時に冷静に対処でき、ボランティアにあたって有効な支援ができるノウハウを持つ学生の育成、知的拠点としての災害時の記録等を集積・分析し地域社会に対し情報発信を行っていくこと、メンタルヘルスケア等の被災者へのケア等を中心としながら、その他の分野も含めて、長期にわたって復興事業を行っていくこととしている。地理的にも関係が深く連携していた3大学が東日本大震災を受け、地域の知的拠点として使命を果たすため、さらに連携を強化することとし、本学においては、その中心的役割を教育復興支援センターが担っていくこととしている。

### 3大学「災害復興キックオフ」 山形県民シンポジウム ～私たちが3.11の大震災から興すこと～

山形県民シンポジウム「災害復興キックオフ」を開催するにあたって、3大学は、東日本大震災からの復興を目的として、3大学が連携して「災害復興学」を創設し、地域社会に貢献することを目的として、平成23年12月15日(日)に山形県民シンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、3大学の学長が出席し、東日本大震災からの復興を目的として、3大学が連携して「災害復興学」を創設し、地域社会に貢献することを目的として、平成23年12月15日(日)に山形県民シンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、3大学の学長が出席し、東日本大震災からの復興を目的として、3大学が連携して「災害復興学」を創設し、地域社会に貢献することを目的として、平成23年12月15日(日)に山形県民シンポジウムを開催しました。

日時：平成24年3月4日(日) 13:30～16:30  
 場所：ホテルメトロポリタン山形4F 霞城  
 対象：どなたでも参加いただけます。200名程度  
 主催：南東北大学連携研究会

氏名	所属
13:30	開会式
13:35	山形大学 学長 菅原 隆
13:40	山形県知事 山形県知事 山形 浩平
13:45	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
13:50	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
13:55	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:00	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:05	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:10	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:15	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:20	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:25	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:30	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:35	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:40	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:45	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:50	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
14:55	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:00	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:05	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:10	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:15	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:20	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:25	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:30	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:35	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:40	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:45	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:50	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
15:55	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:00	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:05	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:10	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:15	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:20	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:25	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:30	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:35	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:40	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:45	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:50	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
16:55	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平
17:00	山形県民シンポジウム 山形県民シンポジウム 山形 浩平

申込方法：チラシ裏面の申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにてお申し込み下さい。  
 申込期限：2月9日(月)  
 申込先：山形大学 渉外部 大学連携 担当：樋口  
 TEL: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820 E-mail: hijukun.kj.yamagata-u.ac.jp

南東北3大学の連携

## 大災害に際して地方国立大学がなすべきこと

南東北三国立大学学長決意表明

平成23年12月15日

宮城教育大学学長 高橋 孝助  
 山形大学学長 結城 章夫  
 福島大学学長 入戸野 修

大地震と大津波、さらに追い打ちをかけるように襲った原発事故——東北地方は人類が全く経験したことのない多重災害に遭遇した。死亡・行方不明あわせて約2万人の犠牲に加え、家屋・家財を失ったり職を失ったりした人々が膨大な数に上っている。

今日、この未曾有の災害が地域の人々、とりわけ子どもや若者たちにもたらしている被害は深刻なものがある。あるいは孤児となり、あるいは親が失業し、心に傷を負い、母校を失い、避難を余儀なくされるなど、さまざまな苦難を強いられている青少年たちが数多く生まれている。

進学を望みながらあきらめざるを得ない若者たちも少なくないと思われる。8月に行われた大手予備校の模擬試験の際に、一部を除く東北の国立大学への志願予定者が減少する兆候が露わになった。被災県内の進学者の絶対的な減少のみならず、県外から東北の大学への進学者の減少、あるいは進学を機に他県に流出するケースも増えるものと予想される。原発事故による放射能汚染に見舞われている福島大学において、特にその傾向は顕著に表れている。

今回の大災害は、個々の大学の利害を超えた大きな問題と課題を、この地の高等教育機関に投げかけているものと言わねばならない。東北の大学は、今なにをなすべきか。南東北の三国立大学の立場で決意する。

(1) 被災した子どもや若者たちが夢や希望を失うことのないよう、検定料・入学科・授業料の減免など、大学はできる限り進学や勉学の機会を提供しなければならない。また国に対しこれまで以上に財政支援の要請を行う。

(2) 今こそ、教育・研究・社会貢献を柱とした地方国立大学の真価が問われるときであり、地域の高等教育機関としての役割を果たすべく、被災地復興や被災者支援において、独自の組織を立ち上げ、最大限の力を注ぐべきである。

(3) 地域の復興は長丁場になる。たくさんの学生が被災地・被災者支援のボランティア活動に従事しているが、学生がボランティア活動を行いやすい環境を整備することが重要である。またそのことを含め、長期にわたる復興事業の一翼を高等教育機関が担うべく、「災害復興学」\*という新しい分野を切り開くことにチャレンジする。

(4) 県や市町村あるいは地域諸団体が今、復興のためにさまざまな事業を展開し、全国からも支援の手が差し伸べられている。われわれ南東北三大学は、知的資源を集積する高等教育機関の立場から、諸機関・諸団体が協力しつつ、復興に向けて最大限の貢献をしなければならない。

災害からの復興は、住宅や産業の復興ばかりでなく「人間の復興」でなければならない。そのために高等教育機関の果たすべき役割は小さくない。私ども南東北国立三大学は、高校をはじめとする学校、行政、あるいは保護者や地域住民との連携を深めながら、与えられた使命を遂げるべく、努力していくことを決意するものである。

### \*「災害復興学」を打ちたてるために

「防災教育」は古くから言われているが、「災害復興学」は新しい言葉である。未曾有の大災害の瓦礫の中から、この新しい言葉が確然と立ちあがってくることを、歴史が求めているとは言えないだろうか。この言葉が何を意味しているか、その定義は今後の理論的・実践的営為の成果として確立されるべきものであるが、試みにその柱となる内容を列記する。

- (1) 災害の記憶を個人のレベルにとどめず、いわば「社会の記憶」として明確に継承していくこと。
- (2) 思い出したくない被災の記憶を脳裏に刻み込まれた子どもや青年たちに、それを乗り越えるだけの「生きる力」をもたせること。
- (3) 自身が災害に遭遇したとき冷静かつ的確に対処できるように知識と心の準備を、学生たちにもたせること。
- (4) どこかで災害が起こったとき、現地に駆けつけるなどして貢献できるだけの、有効な支援のノウハウを学生たちにもたせること。
- (5) 実際に災害が発生した場合において、復興に向けた諸活動を通じ、学生たちの人的な成長を確実に実現すること。





# X

## 創造的復興教育協会との連携

平成24年1月25日に立ち上がった、一般社団法人「創造的復興教育協会」には、高橋学長が代表理事として、また阿部連携担当理事が理事として名を連ね、その主たる事務所を宮城教育大学に置くこととした。

今後、教育復興に携わる様々な団体等の「つながり」を重視した活動を行うこととしており、本学においてもその中心的な団体の一つとしてその役割を担うべき連携していくこととしている。

### 一般社団法人 創造的復興教育協会

主たる事務所 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地

法人成立の日 平成24年1月25日

目的 東日本大震災の被災地から次代を切り拓く創造的な人材を育成し、地域社会の絆を再構築するとともに、このような創造的復興教育の取組を先進事例として全国や世界に発信していく。

- 事業
- (1) 東日本大震災の被災地における創造的復興教育の取組に係る実証研究、情報共有、広報活動及び人材育成のための事業
  - (2) 東日本大震災の被災地において、創造的復興教育に取り組む各種団体等殿連絡調整のための事業
  - (3) 東日本大震災の被災地における学習支援、心のケア及び教育環境の充実のための事業
  - (4) 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

役員 代表理事：高橋孝助

理事：阿部芳吉、新妻二男、中田ウスラ、安西祐一郎、貝ノ瀬滋、金子郁容

監事：早坂毅

### 創造的復興教育協会研究会(第一回、いわき市)

日時：平成24年2月8日(水) 10:00～19:30

場所：福島県いわき市立久之浜第一小学校

- 議題：1. ヤングアメリカンズ ワークショップ視察  
2. 創造的復興教育協会研究会(第一回)  
3. ヤングアメリカンズ 子どもたちのショー視察

本研究会の趣旨：

正式に設立した一般社団法人創造的復興教育協会の第一回研究会として、現地復興教育関係者と協会関係者で、視察・議論を行い、創造的復興教育の取組を加速する。

1. これからの子どもたちに必要な「生き抜く力」について 具体的事例も交えながら議論し、趣旨を磨き上げていく
2. 関係者で具体的な創造的復興教育の取組を共有する
3. 各自治体・学校での創造的復興教育をご検討いただく契機とする
4. 関係者のネットワークを強化する



# XI

# 外部資金等の獲得

## 1 大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業

本学が行う教育復興支援の充実のため、文部科学省の競争的資金「平成23年度大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)」に応募し、その申請が認められた。

平成24年度以降においても申請することとしている。

**補助金額:110,600千円**

**補助事業の目的・必要性**

### 1) 全体

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、宮城県は生活全般にわたり極めて甚大な被害を被り、被災地では未だ避難生活も続いている状況である。しかし、震災からの本格的な復興に向けて自治体を中心に様々な活動が動き出している中、被災地仙台にあり教員養成教育に責任を負う大学として、被災地への中・長期的な教育的支援を重点的に取り組むため、その中核的な学内組織「宮城教育大学教育復興支援センター」を立ち上げ、宮城県及び仙台市教育委員会との連携のもと、宮城県の教育の復興及び発展を目指すとともに地域に密着した現職教員支援及び教員養成実践教育を行うものである。

被災地の学校では、授業再開によって明らかになった事実関係が明確化しており、学力低下・学力格差が懸念されている。

- ①教室復旧過程における児童・生徒の学習意欲・態度、集中力、学習達成度における課題が明確化
- ②避難所生活や仮設住宅生活等の家庭環境の変化が与える子どもへの影響
- ③転校を余儀なくされ、離ればなれになった児童・生徒の心的ストレス
- ④家族を失った児童・生徒の癒されない気持ちの潜在化

しかしながら、これら困難な諸課題に向き合っている教職員は疲労が蓄積しており、日々進行する被災の現状認識に伴う心的ストレスの増加、問題をもった児童・生徒に対する心のケアを含む教育の方法に関する知識不足などから、適切な教育環境が確保されておらず、教育復興への大きな障壁となっているうえ、これらは短期間で解決できる課題ではないものである。被災地仙台にあり教員養成教育に責任を負う本学が、被災地域の日も早い復興のためにできることを考えたとき、中・長期的な教育的支援という視点に基づいた本事業を実施することにより、宮城県の教育復興を図る取り組みの一つとして寄与するものである。さらに、教員を目指す学生が被災地域に赴き、困難な生活に立ち向か

う児童・生徒や教職員とふれ合いながら勉学を教えたり教育活動に携わることは、今後の教員生活に必須となる教育実践力や人間力の向上のための貴重な財産となり得るものである。

## 2) 本年度

本事業の本年度の目的は、被災地の児童生徒の学習の遅れに対する「学習支援」として、要請のあった被災地区の各学校に、本学学生や連携している他大学学生を派遣し、児童生徒の個別学習指導や教員補助にあたる学習支援活動を実施する。また、震災復興に関わるセミナーや心のケアに関する講習会等を実施する。さらに、本学教育復興支援センターの事業実施に向けた人的体制の構築や必要設備等の整備を行うものである。

## 2 震災復興・日本再生に関する支援対象事業

本学が行う教育復興支援の充実のため、一般社団法人国立大学協会の「平成 23 年度震災復興・日本再生支援事業」に応募し、その申請が認められた。

平成 24 年度以降においても申請することとしている。

**補助金額:1,000千円**

### 補助事業の趣旨・目的(被災自治体からの要望内容を含む)

被災地の学校では、仮設住宅生活や転校を余儀なくされる等、家庭・教育環境の大きな変化や、家族や友だちを失った癒されない心的ストレス等によって起因される、児童・生徒の中・長期的な学習意欲の低下・学力格差が懸念されている。

また、被災した児童・生徒に対応する側の教員も自らが被災者であるため疲労や心的ストレスが蓄積している上、被災した児童・生徒への心のケアや教育方法については、知識・経験不足も影響し、適切な教育環境が確保されておらず、教育復興への大きな障壁となっている。

このため本学では、甚大な被害を被った宮城県の教育の復興に向け、平成 23 年 6 月 28 日に「宮城教育大学教育復興支援センター」を設置し、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会との連携のもと、県内の国公私立大学及び国立教員養成系大学・学部と連携しながら、県内の児童・生徒の確かな学力の定着・向上及び現職教員の支援を中・長期的視点に立って実施するものである。

平成 23 年度においては、学力低下・学力格差に対応するため、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会から支援要請のあった被災地区の各学校へ学生を派遣して、長期休業期間や土日を活用した学習支援や補習授業を行う、「宮城教育大学教育復興支援塾事業」を実施しているところである。

本事業を行うにあたっては、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会に「本学教育復興支援センター」の支援事業実施に向けた協力を依頼し賛同を得ているものであり、また被災地区の教育委員会や各学校に支援ニーズの調査を行い、事業実施に向けた調整等を実施している。





# XII

## 地域学校等との連携・研究

今回の被災状況は、地域や各学校により多様な対応求められたものであった。本センターは、大震災後の対応などで、後世に残すべきであると考えた特徴的な学校と教育委員会について、それぞれと連携協力しながら冊子としてまとめ刊行するとともに、今後の支援や復興教育に資することとしました。

### ① 仙台市中野小学校

地域の方々ともに、子どもたちや教職員が屋上に避難をし、ヘリコプターで救助され、学校再開に学生を有効に活用した。

### ② 仙台市立榴岡小学校

新幹線難民など 2,500 名以上を抱え地域住民とともに避難所運営に工夫をこらした。

### ③ 仙台市立七郷中学校

教室が使用不可能になった折、体育館に段ボール教室を迅速に設置し、学生を有効に活用し授業を再開した。

### ④ 仙台市立郡山中学校

中学校の家庭科室を活用して、教員や保護者が中学生や大学生を有効活用して、炊き出しの下ごしらえをしてから避難所でボランティア活動をした。

### ⑤ 気仙沼市教育委員会(気仙沼市校長会)

地震津波の他、火事にも見まわれ被害が特に甚大であった。

上述の5つの取組を別冊として、取りまとめた。



# 資料

## 1 平成23年度実施（予定）事業一覧（緊急的なボランティア派遣を除く）

	日程	実施場所	実施内容	備考
1	6月4日	宮城教育大学	第1回未来づくりESDセミナー (震災復興と学校・地域の未来づくり)	「セミナー」 関係
2	6月25日	宮城教育大学	第2回未来づくりESDセミナー (震災からの再生×生物多様性×ESD)	「セミナー」 関係
3	7月25日～29日、 8月1日～3日	七ヶ浜町立七ヶ浜中学校	プリント学習での質問への対応	
4	7月25日～ 7月27日	松島町立松島第一小学校	自学自習への支援	
5	7月25日～ 7月29日	松島町立松島中学校	自学自習への支援	
6	7月25日～ 7月29日	仙台市立七郷中学校	プリント学習での質問への対応	
7	7月25日～27日、 8月18日～19日	東松島市立矢本東小学校	自学自習への支援	
8	7月26日～7月29日	東松島市立大曲小学校	自学自習への支援	
9	7月26日、7月28日	東松島市立矢本西小学校	自学自習への支援	
10	7月26日～7月29日	東松島市立矢本第二中学校	自学自習への支援	
11	7月26日	東松島市立鳴瀬第二中学校	自学自習への支援	
12	7月21日～7月22日	東松島市立大塩小学校	自学自習への支援	
13	7月31日	名取市洞口水住居 他	第3回未来づくりESDセミナー (生態系の保全といぐね(居久根)の役割)	「セミナー」 関係
14	8月22日～8月24日	大崎市立松山小学校	サマースクールへの支援	
15	8月1日～8月5日	大和町立大和中学校	自学自習への支援	
16	8月1日～8月5日	大和町立宮床中学校	自学自習への支援	
17	8月1日～2日、4日 ～5日、8日～9日	亘理町立逢隈中学校	自学自習への支援	
18	8月1日～8月4日	東松島市立矢本第一中学校	自学自習への支援	
19	8月1日～8月3日	女川町立女川第二小学校	補習授業の補助	
20	8月1日～8月3日	女川町立女川第一中学校	補習授業の補助	
21	8月2日～8月5日	宮城県本吉響高等学校	自学自習への支援	
22	8月4日～5日、 8日～10日	大崎市立古川東中学校	サマースクールへの支援	
23	8月8日～8月12日	宮城県志津川高等学校	自学自習への支援	
24	8月1日～5日、 8日～11日、18日	名取市立閑上中学校	自学自習への支援	
25	8月17日～19日、 22日～23日	七ヶ浜町立向洋中学校	教員補助	
26	8月17日～8月19日	相馬市立磯辺中学校	補習学習	
27	8月18日～8月19日	気仙沼市立唐桑中学校	自学自習への支援	
28	8月18日～8月19日	気仙沼市立松岩中学校	自学自習への支援	
29	8月18日～8月19日	気仙沼市立津谷中学校	自学自習への支援	
30	8月20日	石巻市立飯野川中学校	教育夏祭り2011IN 東北への支援 (ボランティア学生の派遣)	「子ども対象 イベント」関係
31	8月22日～8月24日	岩沼市(市総合体育館)	補習授業、自学自習支援	
32	8月22日～8月24日	大崎市立富永小学校	サマースクールへの支援	
33	8月29日～9月2日	南三陸町立伊里前小学校	教員補助	
34	8月8日～8月10日	宮城県石巻好文館高等学校	自学自習への支援	

	日程	実施場所	実施内容	備考
35	8月17日～8月20日	国立花山青年自然の家	気仙沼市被災児童のための「KAWTABI サマー・スクール」への支援（ボランティア学生の派遣）	「子ども対象イベント」関係
36	8月26日、8月28日	東松島市立鳴瀬第二中学校	運動会への支援（用具の準備・誘導）	
37	8月29日～9月2日	南三陸町立名足小学校	教員補助	
38	8月17日～8月21日	栗原市立志波姫中学校	補習学習	
39	8月19日～8月21日	大郷町立大郷中学校	補習学習	
40	9月5日～9月30日	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
41	9月5日～9月30日	岩沼市立玉浦中学校	教員補助	
42	9月26日～9月30日	相馬市立中村第二中学校	教員補助	
43	8月25日～継続（年間）	仙台市立七郷中学校	教員補助	
44	8月25日～継続（年間）	仙台市立中野小学校	教員補助、放課後の学習支援	
45	8月25日～継続（年間）	仙台市立荒浜小学校	教員補助	
46	8月25日～継続（年間）	仙台市立東六郷小学校 幼児学園	教員補助	
47	9月5日～30日	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
48	9月5日～30日	岩沼市立玉浦中学校	教員補助	
49	9月10日	宮城教育大学	第4回未来づくりESDセミナー （震災復興と学校・地域の未来づくり）	「セミナー」 関係
50	9月17日	岩沼市立玉浦小学校	運動会の運営補助	
51	9月26日～30日	相馬市立中村第二中学校	教員補助及び自学自習支援	
52	10月13日～継続 （年間）（週1回程度）	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
53	10月5日～継続 （年間）（週1回程度）	岩沼市立玉浦中学校	教員補助	
54	10月28日、11月下旬	仙台市立将監西小学校	学校支援プログラム（音楽教育講座） 仙台市立将監西小学校での総合学習に対する 支援	
55	10月29日	青葉区中央市民センター・ ホール	不登校支援と震災後の心の支援 （話題提供とパネルディスカッション、コー ディネーター佐藤静教授）	「セミナー」 関係
56	11月5日	岩沼市岩沼西小学校	岩沼市市制40周年記念事業「理科大好きフェ スティバル」のブース活動の補助 （村松教授もブース参加）	「子ども対象 イベント」関係
57	11月5日	気仙沼市立大島小学校	学校支援プログラム（技術教育講座）大島小学 校児童を対象とした「LEDランタン工作教室」	「子ども対象 イベント」関係
58	11月6日	石巻市	全国生涯学習ネットワークフォーラム2011 第一分科会 の補助	
59	11月6日	文部科学省	全国生涯学習ネットワークフォーラム2012 第五分科会 ブースセッションの出展	
60	11月12日	宮城教育大学	第5回未来づくりESDセミナー（震災復興 ボランティア報告会）	「セミナー」 関係
61	11月15日～3月21日 （週1回程度）	仙台市立折立小学校	放課後の学習支援	
62	11月19日	仙台演劇工房 10-BOX	復興への子どもの時間 ～ヤギと癒しと～ ふれあいコーナーの実施補助	「子ども対象 イベント」関係
63	11月27日	特別支援教育支援員講習会	「災害と心のケア」講師：関口博久 「視覚障害のある子どもの教育指導」講師：猪 平真理	「心のケア」 関係
64	12月6日、8日、 1月12日	防災教育等推進者 緊急研修会	災害を経験した子どもたちの心の理解とケア 講師：宮前理（12/6、1/12）佐藤静（12/8）	「心のケア」 関係
65	12月10日～11日	石巻市相川運動公園 仮設住宅サポートセンター	第6回未来づくりESDセミナー	「セミナー」 関係
66	12月20日	東北福祉大学	東日本大震災における東北地区大学支援プロ ジェクト報告会（ボランティア学生の派遣）	「セミナー」 関係
67	12月21日、26日	大崎市立鹿島台中学校	自学自習支援	
68	12月25日～27日	栗原市教育委員会	自学自習支援（冬の学府くりはら塾）	
69	12月26日～28日、 1月4日～6日	岩沼市立玉浦中学校	自学自習支援（冬休み勉強会）	



東日本大震災

	日程	実施場所	実施内容	備考
70	12月26日、27日	岩沼市総合体育館	自学自習支援(ニコ・ニコ・ウィンタースクール)	
71	12月26日、27日	大崎市立真山小学校	教員補助	
72	12月26日、27日	大崎市立田尻中学校	自学自習支援	
73	12月26日、27日	大和町立大和中学校	自学自習支援(たいわウィンタースクール)	
74	12月26日、27日	大和町立宮床中学校	自学自習支援(たいわウィンタースクール)	
75	1月4日～6日	柴田町船岡公民館	自学自習支援(冬期受験力アップ学習会)	
76	1月5日、6日	大郷町立大郷中学校	自学自習支援(大郷町ウィンタースクール)	
77	1月13日～15日	エスパルススクエア	榴岡小学校と連携による「折り鶴プロジェクト」イベントでの運営補助、参加小学生とのオブジェ作成	「子ども対象イベント」関係
78	1月18日	気仙沼ホテル観洋	第7回未来づくりESDセミナー	「セミナー」関係
79	2月5日	せんだいメディアテーク・オープンスクエア	第8回未来づくりESDセミナー 環境フォーラムせんだい2011「『環境』震災で見えてきたこと」	「セミナー」関係
80	2月11日	TKP 仙台カンファレンスセンター	学校・地域連携研究シンポジウム「夢と志をもつ子どもたちを育むために～復興へ向けて！踏みだそう、学校と地域で！～」	「こころざし・キャリア教育」関係
81	2月16日	東北大学・片平さくらホール	グローバルセミナー東北(震災復興と生態適応)でのボランティア活動報告及びポスター発表(ボランティア学生の派遣)	「セミナー」関係
82	2月18日	気仙沼市立気仙沼中学校	気仙沼市立小学校児童を対象とした「図書館実験工作教室」(講師：内山准教授)	「子ども対象イベント」関係
83	2月19日	特別支援教育支援員講習会	「障害が重複している子どもへの支援」(講師：菅井教授)「発達障害等のある子どもへの支援」(講師：野口教授)	「心のケア」関係
84	2月27日～3月2日	南三陸町立志津川中学校	教員補助	
85	2月29日～3月22日	仙台市立八本松小学校	教員補助	
86	2月29日～3月23日	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
87	3月3日	気仙沼中央公民館	気仙沼・本吉地区の小・中・高校生、一般を対象とした「2011 ESDサイエンス・ワークショップ」(講師：玉木教授)	「子ども対象イベント」関係
88	3月4日	アエル6階 仙台市情報・産業プラザセミナールーム	特別支援教育フォーラム 「東日本大震災と特別支援教育」	「セミナー」関係
89	3月5日～9日	丸森町立館矢間小学校	教員補助	
90	3月5日～15日	丸森町立丸森小学校	教員補助	
91	3月5日～16日	松島町立松島第一小学校	教員補助	
92	3月5日～23日	七ヶ浜町立七ヶ浜中学校	教員補助	
93	3月8日～22日	仙台市立蒲町小学校	教員補助	
94	3月13日～22日	女川町立女川第一中学校	教員補助	
95	3月13日～23日	大崎市立古川第四小学校	特別支援学級の補助	
96	3月13日～30日	南三陸町立志津川中学校	教員補助	
97	3月17日	イオン石巻ショッピングセンター	街角科学体験コーナー(提案：山形県、運営：山形大学)へのブース出展(水谷教授)「LEDのミニインテリアランタン工作教室」	「子ども対象イベント」関係
98	3月26日～30日	亘理町立荒浜中学校	自学自習支援(春休み勉強会)	
99	3月27日～30日	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(春休み勉強会)	
100	3月27日～30日	気仙沼市内中学校(10校)	「春休み学び教室」での学習支援(対象：小・中学校生徒)	

## 2 ボランティア実施風景（春から夏）

### ○4月11日～5月12日 宮城県立石巻支援学校

活動内容：学習支援、食事・洗濯・清掃

参加学生：30名



石巻支援学校へは、本学特別支援教育課程の学生30名と担当教員が複数のチームに分かれ、交代で2泊3日ずつ支援にあたりました。石巻支援学校に避難していた、障がいのある児童生徒への学習支援や地域住民の方のサポート（食事・洗濯・清掃）を行いました。

### ○4月18日～28日 仙台市立七郷中学校

活動内容：学習環境整備、教員補助

参加学生：26名



避難所だった箇所の清掃活動、教室環境づくりに向けた机や椅子の移動作業、給食の世話、部活動補助、生徒の話し相手、安全確保などを中心に活動しました。4月21日からは学習支援も始まりました。体育館を仕切って教室にしていたため、授業に集中しにくい生徒が多く、学生はそのような生徒に寄り添って声をかけるなどして、授業のサポートを行いました。現在も6名の学生が継続して学習支援をしています。

## ○4月23日、6月4日 仙台市立郡山中学校

活動内容：PTA 会による避難所への炊き出し支援協力

参加学生：各日7名



郡山中学校 PTA、OB 等で、壊滅的な被害をうけた市町村への支援として炊き出しを行うことになり、本学学生も協力をしました。

4月23日は、女川原子力発電所に避難している女川町民の方々約500名分のカレーライス、豚汁を調理しました。郡山中家庭部10名の生徒も一緒に参加しました。女川原子力発電所内は火気使用厳禁だったため、23日に調理室で調理し、翌24日早朝にPTAの方々が女川へ運びました。

6月4日は、仙台市立六郷中学校に避難している方への炊き出しを行いました。中学校調理室で調理したのち、PTAの方々とともに六郷中学校へ配布をしに行きました。

### (参加学生の声)

校長先生をはじめとし、PTAの方々の「思い」が炊き出し前から伝わってきたので、私たちも何とか力になりたいという思いで頑張りました。郡山中の生徒も参加していたので、生徒との交流もはかりながら仕事を分担し、約500名分のカレーライス、豚汁を4時間半で作ることができました。できあがった時は達成感がありました。翌日、どのような人たちに食べてもらうのか、おいしいと言ってくれるだろうかなどを思いながら、活動を終了しました。

## ○4月26日～5月6日 仙台市立高砂中学校

活動内容：調理補助、支援物資仕分け作業

参加学生：9名



給食時におかずを持参できる生徒とできない生徒（自宅が流されたためなど）がいたため、校内で調理を行い、教室に配布する補助を行いました。材料には、支援物資で届いた野菜等を使用し、PTAの方と一緒に生徒約50人分の調理を行いました。仕分け作業では、学校に届いた文房具の仕分けを行いました。



## ○5月13日～ 仙台市立中野小学校

活動内容：教員補助、休み時間・放課後の学習支援・遊び相手等 参加学生：29名

中野小学校は、以前からCST事業（コア・サイエンス・ティーチャー）で関わっている学生がおり、震災をきっかけに理科のほかの学習支援や児童の遊び相手、話し相手を行っていました。その学生から輪が広がり、今では東北大学、東北学院大学の学生も加わってチームを作り、曜日毎に担当を決めてサポートしています。今年度いっぱい継続的な支援を行っていく予定です。

## (参加学生の声)

- とても緊張していましたが、子どもたちの笑顔に、不安な気持ちも吹き飛んでしまいました。なかなか自分の思うように活動はできませんでしたが、「教師」という仕事に触れ、「教師」になりたいという思いを確認することができました。ありがとうございます。
- 子どもたちから「今日は誰先生が来たの?」「明日は誰先生が来るの?」と聞かれ、喜びとやりがいを感じました。
- 業間に校庭で遊びましたが、中には元気のない児童もいました。こちらから積極的に声をかけることで一緒に活動することができましたが、少し心配です。学生がとにかく積極的に遊びの輪を広げることが不可欠だと思います。
- 6時間目の交流会では、中野小、中野栄小の児童がお互い仲良くなれたようでよかったです。本日参加し、先生方やボランティアのサポートがあることで自己紹介などをスムーズに行えたように感じました。今後も積極的に活動を行っていきたいと思います。

## ○5月18日 仙台市立七郷中学校

活動内容：学習環境整備

参加学生：13名



教室が使えるようになり、今まで体育館を分割して使っていた教室を校舎に戻すことになったため、ロッカー等備品を移動する作業を行いました。

## ○6月1日～ 仙台市立荒浜小学校

活動内容：学校において業間休み遊び相手

避難所（ウェルサンピア仙台）において遊び相手

参加学生：16名

荒浜小学校は、移転先の東宮城野小学校内での活動と、児童が避難しているウェルサンピア仙台での活動の2本立です。小学校では、業間休みの遊び相手としての活動を、ウェルサンピア仙台では児童の宿題等の学習支援活動を行っています。ウェルサンピア仙台の活動は、多くの児童が仮設住宅へ移動したことに伴い、7月8日で終了になりました。今後は、仮設住宅でのボランティア活動が検討されています。

（参加学生の声）

- 6月21日業間休みの遊び相手をしました。1、2年生と鬼ごっこをしたりシロツメクサの髪飾りを作ったりマルマルモリモリのダンスを踊ったりしました。
- 28日業間休みの遊び相手をしました。鬼ごっこ（変わり鬼、隠れ鬼）を1、2年生と途中から色々な学年の子としました。
- 7月5日業間休みの遊び相手をしました。5年生と一緒に宇宙で育ったアサガオの種を植えました。
- 2回目に行ったときに心を開いてくれたのかクラスの子がいなくなって寂しいとか津波で家がなくなったことなどを話してきてくれました。改めて長期でのボランティア活動が必要だと感じました。

## ○6月1日～ 仙台市立東六郷小学校、東六郷幼児学園

活動内容：（小学校）放課後の遊び相手等、（幼児学園）教員の補助 参加学生：19名

東六郷小学校は移転先の六郷中学校にて、東六郷幼児学園（もともとは東六郷小学校に併設）は移転先の六郷市民センターで活動をしています。小学校では放課後に、避難所へ帰るためのバスが来るまでの間の遊び相手や話し相手をしています。幼児学園では、通園退園の補助や遊び相手、学園の活動のサポートを行っています。

（参加学生の声）

- 今日、竜巻注意報が出たことや大雨に怯えた様子の子もたちが何人かいました。雨が上がった後も、いつもより甘えたりぐずってしまう子もいました。その際は「大丈夫だよ」「建物は壊れないよ」などと声をかけて対応しました。私自身少し戸惑ってしまいましたが、またもし同じような場面があったら、どのような対応がいいのかももう一度考えたいです。
- 地震や津波のことを声に出している子もいて、こちらがドキッとする場面がありました。しかし、子どもたちは元気に活動していました。何かこちらに訴えかけてきたときはしっかり受け止め、あとは見守る姿勢を大事にしたいと思います。

## ○6月8日～30日 仙台市立六郷中学校

活動内容：避難所となった六郷中学校で生活している小中高校生の学習支援や話し相手  
参加学生：13名

避難所となった六郷中学校体育館において、避難している小中高校生に対して、学校や塾の宿題のサポートをしたり、話し相手になったりしました。六郷中学校避難所は、7月10日で閉鎖となったため、ボランティア活動も6月末で終了となりました。

(参加学生の声)

- 直接に子どもと震災に関する会話をしたわけではないのですが、それでも震災そのものへのコンプレックスや、家が使えなくなってしまったことへの引け目を抱いているという印象を受けました。子どもを傷付けることなく、その内面のケアをいかに行うかということも教育者の大きな課題だということを実感しました。
- ボランティアをしてみて、社会の一員としての意識や活動から得られた経験を今後大切にしていきたいと思います。

## ○6月15日 仙台市立七郷中学校

活動内容：支援物資仕分け作業

参加学生：7名



学校に送られてきた学用品、衣類等の支援物資について、個数を確認し、生徒に配布できるよう仕分けしました。

## ○7月21日～22日 東松島市立大塩小学校

活動内容：自学自習への支援

参加学生：2名





○7月25日～27日 東松島市立矢本東小学校

活動内容：自学自習支援（国語、算数、夏休みの課題）

参加学生：7名



○7月26日、28日 東松島市立矢本西小学校

活動内容：算数の支援、TT 指導

参加学生：4名



○8月2日～5日 本吉響高等学校

活動内容：自学自習への支援（5教科）

参加学生：5名（大阪教育大学4名）



○8月8日～12日 志津川高等学校

活動内容：自学自習への支援（数学・英語）

参加学生：8名（愛知教育大学7名）



○8月17日～21日 栗原市立志波姫中学校

活動内容：学府くりはら塾の支援（栗原市内の中学生に英数国の指導を行った）

参加学生：18名





## ○8月18日～19日 気仙沼市立津谷中学校

活動内容：自学自習への支援

参加学生：5名（愛知教育大学3名）



## ○8月19日～21日 大郷町立大郷中学校

活動内容：大郷町サマースクールの支援（大郷中学校生徒に英数の指導を行った）

参加学生：7名



\*ここに記載のものは実施事業の一部であり、今後、活動内容や写真を整理していく予定となっている。



### 3 新聞記事

①朝日新聞(平成23年7月1日(金)) 朝刊 33面

# 先生の卵被災学校に

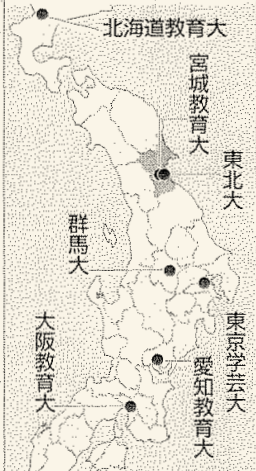
東日本大震災で被災し、授業が遅れている県内の小中学校や高校を支援しようと、全国の7大学が教員志望の学生を夏休みの補習授業に派遣する。宮城教育大の呼びかけに、教育系大学などが賛同した。少なくとも9市町11校が派遣を求めている、100人規模の「先生の卵」が送り込まれる予定だ。

## 全国7大学が派遣

被災地では、1学期の授業開始が約1カ月遅れた学校があるほか、避難所や仮設住宅で勉強しにくい生活を強いられている子どもが少なくない。避難所となった学校もあり、受験を控えた中高生から「勉強の遅れ」を心配する声も出ている。宮城教育大は震災直後から仙台市内の6小中学校に大学生を派遣し、教員補助



夏休み補習に宮城県へ学生を送り出す全国の大学(●)



避難所で小学生の宿題を見る大学生ボランティア(左) = 4月10日、仙台市若林区

## 夏休みの補習支援

のボランティアに取り組んできた。負担が集中した教員の疲労も限界に近づいていることから、被災した学校を継続的に支援する必要があると判断。5月中旬、全国の教育系大学に対し、夏休みの補習や自習授業の支援を呼びかけた。宮城教育大によると、地元東北大に加え、愛知教育大、大阪教育大、北海道教育大、東京学芸大、群馬大が賛同し、大学生を派遣する。さらに検討中の大学もあるという。

愛知教育大の山本良夫学長は「被災地支援だけでなく、東海地震も想定されるなかで今回の経験が学生にも役立つと考え」と話す。6月下旬に学生に募集をかけたところ、1週間で130人が申し込んできたという。一方、宮城教育大が県教育委員会を通じ、市町村に夏休みの補習支援の希望を募ったところ、気仙沼市や女川町など津波被害の大きかった沿岸部を中心に9市町から要望があった。全壊家屋が約4500戸にのぼり、今も約1400人が避難所生活を送る東松島市は、中学校での支援を希望している。市教委の担当者は「避難所から通学している子どもが少なくない。勉強しやすい環境を作ってあげたい」。授業開始が10日間遅れた松島町では、運動会の練習時間を短縮するなどして授業時間を絞り出してきた。町教委は「被災で春休みなどは落ち着いて勉強できる環境になかった。特に受験がある中学生はフォローしていく必要がある」という。宮城教育大は今後、学校側のニーズを聞きながら、支援内容や派遣日程を調整する。派遣する大学生には被災地の状況を伝え、心に傷を負った子どもへの対応の研修もする予定だ。また、福島県内からも支援の希望が寄せられており、支援の仕組みを広げられるか検討するという。

(中村靖三郎)

②河北新報(平成23年7月1日(金)) 朝刊 23面

# 被災児童の教育支援

## 宮教大がセンターを開設

宮城教育大は、東日本大震災後の宮城県の教育復興を後押しするため、「復興支援センター」を開設した。7月から児童・生徒と現職教員のサポートに取り組む。宮城県教委、仙台市教委と連携して、学力向上などに向けた適切な支援プログラムを作るとともに、プログラムを

実践する学生を現地に派遣するコーディネート役も果たす。震災後の教育現場では、被災児童・生徒の学力低下と学校間の学力格差のほか、疲弊した教員や、家庭環境の変化でストレスを抱えた児童・生徒の心のケアが課題になっている。

センターは、同大が震災直後に設置した教育復興対策本部の「みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト」を展開解消。教育現場の要請に応じて、実際に即した支援の枠組みを調査研究する「研究開発部門」と、ニーズを見極めた適切な支援に取り組む「支援実践部門」を

新設した。

センター長は、連携担当理事の阿部芳吉副学長で、当面10人前後の研究

者が実務に当たるほか、専任の特任教授やコーディネーターも新たに採用する。

7月下旬から宮城県松島町、大和町、亶理町、東松島市、女川町などで、長期休業期間や週末を利

用した自学自習支援と、補習授業を行う。大崎市や南三陸町には、授業中や放課後の児童・生徒の

相手をする教員補助員を派遣する。高橋孝助学長は「大学職員や教員が連

日被災地に入り、さまざまな支援の可能性を探っている。東北唯一の教員養成系大学として、息の長い支援を続けていきたい」と話している。

# あとかき

## 阪神淡路大震災に鑑みて

本学では震災直後から学生に対して被災地等へ出かけてのボランティア活動を推奨してきましたが、その数は届出のあった分だけで約230名おりました。これは平成14年の3月に本学が宮城県教育委員会や仙台市教育委員会と連携の覚え書を取り交わしており、それ以降学校支援ボランティアが、徐々に浸透してきた故であると思われます。

その後は阪神淡路大震災時の対応等に鑑み、次の三点を念頭に、教員養成大学としての特性を生かしたボランティア活動を行いました。

- 教育環境が劣悪化し、授業時数の確保等が困難に陥る。
- 被災した子どもたちに対して、長期的な心のケアが必要となる。
- 地域や子どもたち等から信頼され、責任感の強い教職員が過重勤務のため心身ともに疲労困憊に陥る。

## 学校支援ボランティア活動について

震災直後から宮城県教育委員会や仙台市教育委員会とは緊密な連絡を取り合い、さらに地方教育委員会や被災地の校長とも詳しく情報交換などを行いながら、大学生を活用したボランティア活動に励みました。

まず仙台市教育委員会関係分としては、被害が甚大であった中野小学校や七郷中学校を含む6校に学生のチームを作り支援致しました。たとえば七郷中学校では4月18日から体育館に段ボール教室を作る際の荷物運びや、劣悪な環境での授業における補助教員等として、支援を行いました。

次に宮城県教育委員会関係分としては、7月21日から東松島市の大塩小学校を皮切りに他大学の学生も活用して補習授業などを行い、子どもたちに寄り添ってきました。さらに福島県の相馬にも足をのぼして参りました。ボランティア活動から帰って学生たちは口々に、「初めは緊張したが、すぐ子どもたちから笑顔を見せられほっとした」、「ボランティア活動に参加してますます先生になりたくなった」などと感想を述べておりました。子どもたちからは「優しく教えてもらった」、「分かりやすかった」という声が多く聞かれました。私どもは、これらのことからボランティア活動が子どもたち、学生たち双方にとっても、かなり有効であったと改めて確認できました。

なおこれらのまとめについては、4学校分（中野小、榴岡小、七郷中、郡山中）と1教育委員会に限って、記録をまとめ刊行することに致しました。

## 震災後2年目の活動

平成24年度の活動については、これまで同様宮城県教育委員会等と連絡調整を行いながら、本学の学生たちのみならず他大学の学生たちをも活用して、安全に十分な配慮をしながら、よりよいボランティア活動ができるように努めたいと存じます。

さらに校長会、PTA協議会（連合会）などと連携を深めながら「未来へ通じる創造的授業の探究」など、幅広い研究活動を推進して参りたいと考えておりますので、関係の方々からの更なるご指導、ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

平成24年3月31日

宮城教育大学教育復興支援センター長  
阿部 芳吉



東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために

# あすへ向けての軌跡

～震災から1年を経て～

---

平成24年3月31日発行

編集・発行 / 国立大学法人  
宮城教育大学 教育復興支援センター


〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

電話 022-214-3640 090-6854-4789

E-mail fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

制作・印刷 / 株式会社ホクトコーポレーション

---



ご支援いただきました皆様  
協働いただきました皆様  
ありがとうございました

地域とともに 子どもたちの笑顔のために  
これからは 本当の復興です

東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から1年を経て～

発行



国立大学法人  
宮城教育大学

教育復興支援センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

電話 022-214-3640 090-6854-4789

E-mail fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp



このパンフレットは「水なし印刷」  
により印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ  
[VEGETABLE OIL INK]で  
印刷しております。